

岡田英弘教授一年譜と著作目録

I. 年 譜

1931年（昭和6年）

1月24日、岡田英弘、東京市本郷区曙町十一番地に生まる。

父正弘は1900年（明治33年）徳島市に生まる。東京帝国大学医学部医学科卒業、東京高等歯科医学校薬理学教授、東京医学歯学専門学校教授、東京医科歯科大学教授、医学部長、学長、名誉教授、日本学士院会員、昭和大学理事、歯学部長を歴任、日本学士院賞、正五位、勲二等旭日重光章。母梅子は本籍愛知県瀬戸市、陸軍工兵大佐・正四位・勲三等・功四級二宮五十槻の三女、1904年（明治37年）小倉市に生まる。東京女学館卒業。

1937年（昭和12年）

4月、武蔵野町第一尋常小学校に入る。

1941年（昭和16年）

9月、武蔵野第四国民学校初等科第五学年に転ず。

1943年（昭和18年）

3月、武蔵野第四国民学校初等科を卒業す。4月、暁星中学校に進む。

1946年（昭和21年）

4月、成蹊高等学校尋常科第四学年に転ず。

1947年（昭和22年）

4月、成蹊高等学校理科乙類に進む。

1950年（昭和25年）

3月、成蹊高等学校を卒業す。4月、東京大学文学部東洋史学科第一学年に入る。

1953年（昭和27年）

3月、東京大学を卒業す。4月、東京大学大学院に進む。学習院東洋文化研究所助手に任ぜらる。

1955年（昭和30年）

8月、学習院東洋文化研究所助手の任を辞す。9月、国際基督教大学助手に任ぜらる。

1957年（昭和32年）

6月、満文老檔の研究により日本学士院賞を受く。

1958年（昭和33年）

3月、東京大学大学院満期、退学す。8月、国際基督教大学助手の任を辞す。9月、財団法人東洋文庫研究生となる。

1959年（昭和34年）

9月、フルブライト奨学金を受け、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市ワシントン大学極東ロシア研究所（Far Eastern and Russian Institute, University of Washington）に留学し、Nicholas Poppe に師事す。

1961年（昭和36年）

8月、帰国す。

1962年（昭和37年）

4月、クアラ・ランプールの Asian-American Assembly に出席し、途次香港、バンコク、シンガポールの学術研究機関を歴訪す。10月、ユネスコ東アジア文化研究センター調査資料室長（Chief, Research and Data Section, Centre for East Asian Cultural Studies）に任ず。初めて中華民国台湾を訪う。

1963年（昭和38年）

10月、ドイツ研究協会（Deutsche Forschungsgemeinschaft）の奨学金を受け、ドイツ連邦共和国ボン市に赴き、ボン大学東洋研究所（Orientalisches Seminar, Universität Bonn）の客員研究員（Wissenschaftlicher Mitarbeiter）となる。Walther Heissig, Walter Fuchs に師事す。

1964年（昭和39年）

8月29日、常設国際アルタイ学会（Perma-

ment International Altaistic Conference) 第7回会議, オランダ・アルンヘムに開会す。初めて参加す。9月3日, 閉会す。

1965年(昭和40年)

7月, 帰国す。

1966年(昭和41年)

3月31日, 財団法人東洋文庫研究生を免ぜらる。4月1日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授に採用せらる。東洋文庫兼任研究員を委嘱せらる。7月3日, 第1回東亜アルタイ学会(Conference of Junior Altaists on International Cooperation for Manchu and Mongol Studies), 京都に開会す。8日, 会場を東京に移す。10日, 閉会す。8月20日, 中華民国台湾に出張す。28日, 帰国す。

1968年(昭和43年)

9月14日, アメリカ合衆国に出張す。16日, ワシントン大学アジア言語文学部客員副教授(Visiting Associate Professor of Mongolian, Department of Asian Languages and Literature, University of Washington)に任ぜられ, モンゴル語を教う。

1969年(昭和44年)

7月2日, 帰国す。27日, 中華民国台湾に出張す。台北に至る。8月18日, 第3回東亜アルタイ学会(The Third East Asian Altaistic Conference)開会す。20日, 論文“Yüan ch'ao pi shih: A pseudo-historical novel”を宣読す。22日, 閉会す。23日, 陽明山, 北投, 野柳, 基隆に遊ぶ。24日, 帰国す。9月14日, アメリカ合衆国に出張す。

1970年(昭和45年)

6月17日, 帰国す。12月27日, アメリカ合衆国に出張す。

1971年(昭和46年)

6月15日, ワシントン大学客員副教授の任を辞す。20日, 帰国す。8月21日, 中華民国台湾に出張す。台北に至りニクソン訪中につき取材す。9月10日, 帰国す。12月26日, 中華民国台湾に出張す。台北に至る。28日, 第

4回東亜アルタイ学会開会す。29日, 論文“Outer Mongolia in the sixteenth and seventeenth centuries”を宣読す。31日, 閉会す。

1972年(昭和47年)

1月1日, 台中に至る。2日, 日月潭を経, 高雄に至る。3日, 台南を経, 台北に返る。9日, 帰国す。5月19日, 中華民国台湾に出張す。台北陽明山中山堂に中華民国第5期総統蔣中正の就任式を参観す。26日, 帰国す。8月10日, イスラエルに出張す。21日, 帰国す。

1973年(昭和48年)

4月19日, ニュージーランドに出張す。5月3日, 帰国す。6月1日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授に昇任す。

1974年(昭和49年)

4月17日, 中華民国台湾に出張す。台北に至り, ミケランジェロ・アントニオーニの映画「中国」を観る。20日, 帰国す。5月25日, 東京外国語大学評議員に併任せらる。任期翌年9月30日まで。8月4日, 中華民国台湾に出張す。31日, 帰国す。

1975年(昭和50年)

2月1日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員会委員を命ぜらる。任期2年。7月13日, シンガポール, マレーシア, タイ, ネパールに出張す。シンガポールに至り, Institute of Southeast Asian Studiesに滞在す。8月13日, クアラルンプールに至り, University of Malayaに滞在す。9月13日, バンコクに至る。14日, カトマンドゥに至る。28日, バンコクに返る。29日, 帰国す。10月1日, 東京外国語大学評議員に併任せらる。任期2年。

1976年(昭和51年)

5月20日, 大韓民国に出張す。28日, 帰国す。9月1日, ソビエト社会主義共和国連邦, フィンランド, スウェーデン, デンマーク, ドイツ民主共和国, ドイツ連邦共和国,

フランス，連合王国，アメリカ合衆国，カナダに出張す。2日，モスクワに至る。3日，レニングラードに至る。5日，ヘルシンキに至る。7日，ストックホルムに至る。9日，コペンハーゲンに至る。11日，東ベルリンに至り，西ベルリンに宿す。13日，ミュンヘンに至る。15日，ボンに至る。17日，パリに至る。19日，ロンドンに至る。10月3日，ボストンに至る。6日，ニューヘヴン，ニューロンドンに至る。9日，ワシントンDCに至る。12日，インディアナ州ブルーミントンに至る。16日，ユタ州プロヴォに至る。20日，サクラメント，デイヴィスに至る。23日，シアトルに至る。24日，Nicholas Poppe 老師を見て自叙伝口述の事を懇懇し，カセットレコーダーを贈る。27日，ヴァンクーヴァーに至る。31日，ヴァンクーヴァーを発し，帰国す。12月3日，財団法人日本文化会議会員となる。

1977年（昭和52年）

2月1日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員会委員を命ぜらる。任期2年。8月14日，オランダ，連合王国，アメリカ合衆国に出張す。15日，レイデンに至る。16日，常設国際アルタイ学会第20回会議開会す。論文“*How Hong Taiji came to the throne*”を宣読す。19日，閉会す。ロンドンに至る。21日，ボストンに至る。23日，プロヴォに至る。26日，シアトルに至る。28日，シアトルを発す。29日，帰国。10月1日，東京外国語大学評議員に併任せらる。任期2年。

1978年（昭和53年）

6月29日，中華民国台湾に出張す。台北に至る。7月3日，国際清史檔案研討会（International Ch'ing Archives Symposium）開会す。5日，論文“*Outer Mongolia through the eyes of Emperor K'ang-hsi*”を宣読す。6日，閉会す。慈湖，鹿港を経，台中に至りて宿す。7日，中興新村を経，台南に至りて宿す。9日，北港を経，台北に返る。11日，帰国す。

1979年（昭和54年）

2月1日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員会委員を命ぜらる。任期2年。3月13日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。27日，所長事務代理を免ぜらる。4月1日，国立民族学博物館研究協力者を委嘱せらる。任期3年。10月22日，大韓民国に出張す。23日，The Fourth Asian Cultural Scholars' Convention ソウルに開会す。24日，論文“*Traditional culture : Its present state and changing roles in industrializing society*”を宣読す。25日，閉会す。27日，帰国。12月26日，中華民国台湾に出張す。台北に至る。28日，第5回東亜アルタイ学会開会す。30日，関渡，石門，野柳に遊ぶ。31日，論文“*Galdan's death : When and how*”を宣読す。閉会す。

1980年（昭和55年）

1月8日，帰国す。12月21日，中華人民共和国に出張す。北京に至り，中国社会科学院を訪う。29日，帰国す。

1981年（昭和56年）

2月1日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員会委員を命ぜらる。任期2年。5月31日，大韓民国に出張す。ソウルに至り，韓国国際文化協会を訪う。6月6日，帰国。10月29日，大韓民国に出張す。大邱に至る。30日，慶北大学校第9回国際学術セミナー「新経学」開会す。31日，閉会す。11月1日，帰国す。12月17日，中華民国台湾に出張す。台北に至る。19日，第6回東亜アルタイ学会開会す。21日，論文“*Four Mongolian songs in praise of Emperor K'ang-hsi*”を宣読す。閉会す。22日，基隆，宜蘭に遊ぶ。

1982年（昭和57年）

1月6日，帰国す。4月1日，国立民族学博物館研究協力者を委嘱せらる。任期3年。

1983年（昭和58年）

2月1日，東京外国語大学アジア・アフリ

カ言語文化研究所運営委員会委員を命ぜらる。任期2年。8月31日、第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議 (International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa), 東京に開会す。9月3日、論文 “The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči*” を宣読す。4日、会場を京都に移す。7日、閉会す。中華民国台湾に出張す。台北に至る。12日、亜洲族譜学術研討会 (Conference on Asian Clan Genealogies) 開会す。論文 “Mongol chronicles and Chinggisid genealogies” を宣読す。13日、帰国す。

1984年 (昭和59年)

4月22日、中華民国台湾に出張す。台北に至る。23日、国際中国辺疆学術会議 (International Conference on China Border Area Studies) 開会す。在日研究状況を報告す。25日、論文 “Life and work of Dayan Khan” を宣読す。27日、閉会す。台中市東の中興新村に至り、台湾省主席李登輝を見る。日月潭に宿す。28日、台中に至り、台中市長林柏榕を見る。鹿港を経、台南に宿す。29日、台北に返る。30日、帰国す。6月11日、ドイツ連邦共和国に出張す。12日、ケルンに至る。13日、常設国際アルタイ学会第27回会議ヴェルバーベルクに開会す。14日、論文 “The Chinggis Khan shrine and *The Secret History of the Mongols*” を宣読す。16日、閉会す。17日、ボンを発す。18日、帰国す。

1985年 (昭和60年)

5月18日、中華民国台湾に出張す。台北に至る。19日、中韓文化関係学術研討会 (International Conference on Sino-Korean Cultural Relations) 開会す。20日、論文 “The Koreans in Manchuria in the *Yüan Times*” を宣読す。22日、閉会す。23日、帰国す。7月5日、イタリアに出張す。6日、ヴェネツィアに至る。8日、常設国際アルタイ学会第28回会議開会す。12日、論文 “Jesuit influence in Emperor K'ang-hsi's Manchu letters” を宣読す。13日、閉会す。16日、

ヴェネツィアを発す。17日、帰国す。

1986年 (昭和61年)

1月25日、アメリカ合衆国に出張す。サンタバーバラに至る。26日、国際中国少数民族言語文化歴史シンポジウム (International Symposium on the Languages, Cultures and History of the Minority Nationalities of China) 開会す。27日、論文 “Mandarin, a language of the Manchus: How Altaic?” を宣読す。29日、閉会す。30日、ロサンジェルスに至る。2月2日、サンノゼに至る。5日、サンフランシスコに至る。6日、サンフランシスコを発す。7日、帰国す。8月23日、ドイツ連邦共和国、ソヴィエト社会主義共和国連邦、フィンランドに出張す。24日、ハンブルグに至る。25日、第32回国際アジア・北アフリカ研究会議 (XXXII International Congress for Asian and North African Studies) 開会す。26日、論文 “Dayan Khan in the Battle of Dalan Terigün” を宣読す。30日、閉会す。31日、ボンに至る。9月7日、フランクフルトに至る。8日、レーングラードに至る。11日、モスクワに至る。14日、タシュケントに至る。15日、常設国際アルタイ学会第29回会議開会す。18日、論文 “The Fall of the Uriyangqan Mongols” を宣読す。19日、サマルカンドを訪う。20日、閉会す。22日、ヘルシンキに至る。24日、ヘルシンキを発す。25日、帰国す。11月25日、東京外国語大学より永年勤続を表彰せらる。

1987年 (昭和62年)

6月15日、アメリカ合衆国に出張す。シアトルに至る。19日、インディアナ州ブルーミントンに至る。20日、常設国際アルタイ学会第30回会議開会す。22日、論文 “The Chakhar shrine of Eshi Khatun” を宣読す。25日、閉会す。26日、ボストンに至る。30日、ニューヨークに至る。7月5日、ワシントンに至る。8日、サンフランシスコに至る。12日、サンフランシスコを発す。13日、帰国す。9月22日、中華人民共和国に出張す。北京に

至る。24日、呼和浩特に至る。25日、内蒙古大学蒙古学国際討論会開会す。27日、論文“Batu Möngke Dayan Khan in *The Biography of Altan Khan*”を宣読す。29日、閉会す。30日、北京に至る。10月2日、帰国す。12月14日、中華民国台湾に出張す。台北に至る。17日、第二届中国域外漢籍国際学術会議 (The Second International Conference on Works in Chinese Outside of China) 開会す。19日、論文“The Lost Manchu Original of *Meng-ku Shih Hsi P'u* by Lomi”を宣読す。21日、帰国す。

1988年 (昭和63年)

4月1日、国立民族学博物館研究協力者を委嘱せらる。任期3年。6月9日、ドイツ民主共和国に出張す。10日、東ベルリンに至る。13日、ヴァイマールに至る。14日、常設国際アルタイ学会第31回会議開会す。論文“Origin of the Khorchin Mongols”を宣読す。17日、閉会す。東ベルリンに返る。18日、東ベルリンを発す。19日、帰国す。7月26日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。8月20日、所長事務代理を免ぜらる。9月17日、ドイツ連邦共和国、ドイツ民主共和国、オーストリアに出張す。18日、ボンに至る。ボン大学中央アジア言語文化研究所 (Seminar für Sprach- und Kulturwissenschaft Zentralasiens, Universität Bonn) に研究滞在す。10月24日、西ベルリンに至る。26日、東ベルリンに至る。科学アカデミー古代史考古学中央研究所 (Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archäologie, Akademie der Wissenschaften der DDR) を訪う。27日、森鷗外記念館を訪う。28日、西ベルリンに返る。29日、ボンに返る。11月12日、ミュンヘンに至る。15日、ザルツブルクに至る。17日、ウィーンに至る。20日、ボンに返る。25日、“The puzzles of Dayan Khan”をボン大学中央アジア言語文化研究所に講ず。12月14日、ボンを発す。15日、帰国す。

1989年 (昭和64年, 平成元年)

4月1日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。10日、所長事務代理を免ぜらる。6月10日、ノルウェー、連合王国に出張す。11日、オスロに至る。12日、常設国際アルタイ学会第32回会議開会す。14日、論文“Dayan Khan in *The Biography of Altan Khan*”を宣読す。16日、閉会す。17日、オスロを発し、ロンドンに至る。22日、ケンブリッジ大学モンゴル・内陸アジア研究施設 (Mongolia and Inner Asia Studies Unit, University of Cambridge) を訪い、講演す。24日、ロンドンを発す。25日、帰国。8月28日、第5回国際チベット学会学術セミナー (The Fifth International Seminar on Tibetan Studies) 千葉県成田市に開会す。9月1日、論文“The Third Dalai Lama and Altan Khan of the Tümed”を宣読す。2日、閉会す。11月14日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。23日、所長事務代理を免ぜらる。

1990年 (平成2年)

3月18日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。30日、所長事務代理を免ぜらる。4月1日、指定職となる。東京外国語大学評議員に併任せらる。任期2年。大学入試センター教科専門委員会委員を委嘱せらる。任期2年。6月17日、オーストリア、ハンガリーに出張す。ウィーンに至る。21日、ブダペシュトに至る。24日、常設国際アルタイ学会第33回会議開会す。28日、論文“The Yuan imperial seal in the Manchu hands: The source of the Ch'ing legitimacy”を宣読す。29日、閉会す。ブダペシュトを発しウィーンに返る。7月1日、ウィーンを発す。2日、帰国す。

1991年 (平成3年)

3月17日、連合王国に出張す。ロンドンに至る。19日、モンゴル帝国とその遺産国際セミナー (International Seminar ‘The Mongol

Empire and Its Legacy') ロンドン大学東洋アフリカ学部 (School of Oriental and African Studies, University of London) に開会す。21日, 論文 "China as successor state to the Mongol Empire" を宣読す。閉会す。24日, 帰国す。4月1日, 国立民族学博物館研究協力者を委嘱せらる。任期3年。7月14日, フランス, ドイツに出張す。パリに至る。16日, ユネスコ本部を訪う。21日, ベルリンに至る。22日, 常設国際アルタイ学会第34回会議開会す。23日, 論文 "The khan as the sun, the jinong as the moon" を宣読す。26日, 閉会す。ベルリンを発す。27日, 帰国す。8月29日, 中華民国台湾に出張す。30日, 台北に至る。第六届中国域外漢籍国際学術会議開会す。論文 "A comparison of the Manchu and Chinese texts of Emperor Ch'ien-lung's compositions on the Torguts" を宣読す。9月1日, 帰国す。10月3日, 中華民国台湾に出張す。4日, 第六届亜洲族譜学術研討会開会す。論文 "The descendants of Jöchi Khasar in *Altan Tobchi* of Mergen Gegen" を宣読す。5日, 閉会す。7日, 帰国す。12月16日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長事務代理を命ぜらる。

1992年 (平成4年)

1月15日, 所長事務代理を免ぜらる。5月28日, 中華民国台湾に出張す。台北に至る。29日, 蒙古文化国際学術研討会 (International Symposium on Mongolian Culture) 開会す。30日, 論文 "Chinggis Khan's instructions to his kin in Blo-bzang-bstan-'dzin's *Altan Tobči*" を宣読す。31日, 閉会す。6月1日, 陽明山に遊ぶ。3日, 帰国す。8月11日, モンゴルに出張す。ウラーンバートルに至る。第6回国際モンゴル学者会議 (6th International Congress of Mongolists) 開会す。12日, 論文 "The *bilig* literature in *Činggis Qaγan-u Čadig*" を宣読す。15日, 閉会す。18日, 帰国す。9月11日, 中華民国

台湾に出張す。台北に至る。13日, 常設国際アルタイ学会第35回会議開会す。14日, 論文 "The Mongolian literary tradition in early Manchu culture" を宣読す。15日, 閉会す。16日, 関渡, 淡水, 野柳に遊ぶ。17日, 帰国す。

1993年 (平成5年)

3月31日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授を定年退官す。

II. 著作目録

単行書

1955年

『満文老檔 I 太祖 1』 東洋文庫, I-XII, 1-463頁 1955年 8月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1956年

『満文老檔 II 太祖 2』 東洋文庫, 465-951頁 1956年 8月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1958年

『満文老檔 III 太祖 3』 東洋文庫, 953-1236, 1-98頁 1958年 3月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1959年

『満文老檔 IV 太宗 1』 東洋文庫, 1-459頁 1959年 3月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1961年

『満文老檔 V 太宗 2』 東洋文庫, 461-884頁 1961年 3月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1962年

『満文老檔 VI 太宗 3』 東洋文庫, 885-1244頁 1962年 3月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

1963年

『満文老檔 VII 太宗 4』 東洋文庫, 1245-1529, 1-115, i-iii頁 1963年 3月31日 (神田信夫, 松村潤等と共著)

- 『欽定西域同文志 下冊』 榎一雄編, 東洋文庫, i-iv, i-ii, 1-396, 1-86, i-ii, 1-338頁 1963年 (モンゴル語・チベット語・オイラト語の転写を担当)
- 1964年
Catalogue of the Manchu-Mongol Section of the Toyo Bunko. The Toyo Bunko & The University of Washington Press, pp. 1-387. 1964年 (Nicholas Poppe, Leon Hurvitz と共著)
- 『欽定西域同文志 研究編』 東洋文庫, i-xxvii, 1-230頁, 図版15枚, 系図7枚 1964年 (モンゴル語・チベット語・オイラト語索引と系図を担当)
- 1965年
 『八旗通志列伝索引』 東洋文庫, i-iii, 1-206頁 1965年12月1日 (神田信夫, 松村潤と共著)
- 1972年
 『野尻湖クリルタイ紀要』 京都大学西南アジア史研究室 1972年3月10日 (山田信夫と共著)
- 『旧満洲檔 天聰九年 1』 東洋文庫, i-iii, 1-161頁 1972年3月31日 (神田信夫, 松村潤と共著)
- 『鑲紅旗檔 雍正朝』 東洋文庫, i-ii, 1-119頁 1972年3月31日 (神田信夫, 松村潤, 細谷良夫と共著)
- 1973年
 『日野強著 伊犁紀行』 芙蓉書房, 1-280, 1-221頁 1973年2月28日 (編輯)
- 1975年
 『旧満洲檔 天聰九年 2』 東洋文庫, 163-384, 1-78頁 1975年3月25日 (神田信夫, 松村潤と共著)
- 1976年
 『倭国の時代』 文藝春秋, 1-308頁 1976年12月15日
- 1977年
 『倭国』 中公新書482, 中央公論社, 1-220頁 1977年10月25日
- 『講座・比較文化 第二巻 アジアと日本人』 研究社, i-iii, 1-304頁 1977年11月30日 (編輯)
- 1978年
 『『満文老檔』・『旧満洲檔』対照表 太宗朝』 『遊牧社会史探究』別冊 i-vi, 1-53頁 1978年3月
- 1979年
 『康熙帝の手紙』 中公新書559, 中央公論社, 1-199頁 1979年11月25日
- 1980年
 『世界の中の日本文字』 橋本萬太郎編, 弘文堂, i-ix, 318, i-viii頁 1980年3月10日 (橋本萬太郎, 川本邦衛, 新田春夫, 松本昭と共著)
- 『国際誤解と日本人』 日本文化会議編, 三修社 1-202頁 1980年12月20日 (編輯)
- 1981年
 『家族 文学の中の親子関係』 PHP研究所, 1-230頁 1981年7月13日 (小堀桂一郎と共編, 討論) (共著)
- 1982年
 『適応力 新しい日本人の条件』 日本文化会議編, 三修社, 1-249頁 1982年1月15日 (編輯)
- 『野尻湖クリルタイ紀要 (二)』 アルタイ学研究連絡組織 1982年3月29日 (共著)
- 『中国のなかの日本』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1-112頁 1982年3月30日
- 『日本と国際環境』 日本文化会議編, 三修社, 1-227頁 1982年11月15日 (編輯)
- 1983年
 『鑲紅旗檔 乾隆朝 1』 東洋文庫, i-xvii, 1-158頁 1983年3月25日 (神田信夫, 松村潤, 細谷良夫と共著)
- 『国際誤解と日本人』 日本文化会議編, 三修社, 1-202頁 1983年6月15日 (編輯)
- 『日本人の条件 一 適応力』 日本文化会議編, 三修社, 1-249頁 1983年8月15日 (編輯)

『成熟社会への条件』 日本文化会議編, 三修社, 1-232頁 1983年12月15日 (編輯)

1985年

『札奇斯欽著 我所知道的徳王和当時の内蒙古(一)』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1-112頁 1985年3月31日 (編輯)

1986年

『中国の英傑9 チンギス・ハーン』 集英社, 1-262頁 1986年12月10日

1990年

『民族の世界史4 中央ユーラシアの世界』 山川出版社, i-xii, 1-576, 1-34頁 1990年6月25日 (護雅夫と共編)

1992年

『歴史のある文明 歴史のない文明』 筑摩書房, 1-312頁 1992年1月25日 (樺山紘一, 川田順造, 山内昌之と共編)

『世界史の誕生』 筑摩書房, i-iv, 1-263頁 1992年5月25日

1993年

『札奇斯欽著 我所知道的徳王和当時の内蒙古(二)』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1-219頁 1993年2月1日 (編輯)

論文

1951年

「新羅国記と大中遺事とについて」 『朝鮮学報』(朝鮮学会) 2, 103-119頁 1951年1月

1956年

「高麗宗室世系表」 『朝鮮学報』 9, 253-274頁 1956年3月

1958年

「元の順帝と済州島」 『国際基督教大学アジア文化研究論叢』 1, 47-60頁 1958年10月30日

1959年

「元の藩王と遼陽行省」 『朝鮮学報』 14, 533-544頁 1959年10月

1961年

「開元城新考」 『和田博士古稀記念東洋史論叢』(講談社), 247-254頁 1961年2月10日

1962年

「蒙古史料に見える初期の蒙藏関係」 『東方学』(東方学会) 23, 95-108頁 1962年3月31日

「蒙古源流年表稿」 『史学雑誌』 71-6, 61-70頁 1962年6月20日

“Color-names in Manchu.” *American Studies in Altaic Linguistics* (University of Indiana, Bloomington, Indiana), pp. 225-227. 1962年

1965年

「ダヤン・ハガンの年代(上)」 『東洋学報』 48-3, 1-26頁 1965年12月

1966年

「ダヤン・ハガンの年代(下)」 『東洋学報』 48-4, 40-61頁 1966年3月

「ダヤン・ハガンの先世」 『史学雑誌』 75-8, 1-38頁 1966年8月20日

“Life of Dayan Qayan.” *Acta Asiatica*, 11, pp. 46-55. 1966年9月

1967年

“An analysis of the Lament of Toyon Temür” *Zentralasiatische Studien* (Seminar für Sprach- und Kulturwissenschaft Zentralasiens der Universität Bonn), 1, pp. 55-78. 1967年

1968年

「順帝悲歌の源流」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 1, 47-55頁 1968年2月20日

「Čoytu Qong Tayijiについて」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 1, 111-125頁 1968年2月20日

「ウバシ・ホンタイジ伝考釈」 『遊牧社会史探究』 32, 1-16頁 1968年3月

「4 元朝はほろびず」 『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 81-96頁 1968年4月25日

- 「5 大ハーンと大ラマ」『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 97-117頁 1968年4月25日
- 「10 康熙大帝」『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 218-235頁 1968年4月25日
- 「11 草原の英雄」『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 236-257頁 1968年4月25日
- 「12 ポタラの宮殿」『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 258-269頁 1968年4月25日
- 「13 大義覚迷録」『大世界史11 紫禁城の栄光』(神田信夫編, 文藝春秋) 270-281頁 1968年4月25日
- 1969年
- “Yüan Ch’ao Pi Shih, a pseudo-historical novel”『第三届東亜阿爾泰学会會議記録』/ *Proceedings of the Third East Asian Altaistic Conference*, 国立台湾大学, 台北, 194-205頁 1969年
- 1970年
- 「北元奉祀聖母瑪利亞攷」『国立政治大学辺政研究所年報』1, 71-77頁 1970年7月
- 「邪馬台国は中国の一部だった」『諸君!』2-9, 100-110頁 1970年9月1日
- 「チンギス・ハーン崇拜とモンゴル文学」『歴史と地理』(山川出版社) 182, 22-23頁 1970年11月20日
- 1971年
- 「王陽明の場合」『諸君!』3-4, 50-53頁 1971年4月1日
- 「中国を解く鍵・人民解放軍」『諸君!』3-12, 173-181頁 1971年12月1日
- “Outer Mongolia in the sixteenth and seventeenth centuries.” *Proceedings of the Fourth East Asian Altaistic Conference, December 26-31 1971, Taipei, China*, ed. Ch’en Chieh-hsien, Department of History, National Ch’eng-kung University, Tainan, Taiwan, ROC, 201-220頁 1971年
- 1972年
- 「毛沢東, ついに林彪に勝つ」『世界経済』(世界経済調査会) 27-1, 2-9頁 1972年1月1日
- 「つくられた憎悪・印パ戦争」『諸君!』4-2, 177-185頁 1972年2月1日
- 「清太宗継位考実」『故宫文献』(国立故宫博物院) 3-2, 31-37頁 1972年3月
- 「かくして北京は屈服した」『諸君!』4-5, 110-125頁 1972年5月1日
- 「ユダヤの正義・アラブの正義」『諸君!』4-8, 58-70頁 1972年8月1日
- “The Secret History of the Mongols, a pseudo-historical novel.”『アジア・アフリカ言語文化研究』5, 61-67頁 1972年8月30日
- “Outer Mongolia in the sixteenth and seventeenth centuries.”『アジア・アフリカ言語文化研究』5, 69-85頁 1972年8月30日
- 「清の太宗嗣立の事情」『山本博士還暦記念東洋史論叢』(山川出版社), 81-92頁 1972年10月20日
- 「毛沢東, ついに林彪に勝つ」『中国関係論説資料』(論説資料保存会) 13, 1971(昭和46)年第4分冊(上)歴史・政治・経済Ⅱ, 226-229頁 1972年12月30日(再録)
- 1973年
- 「解説」『日野強著 伊犁紀行』(芙蓉書房) 下巻, 209-221頁 1973年2月28日
- 「世界史は成立するか」『歴史と地理』(山川出版社) 211, 1-10頁 1973年4月20日
- 1974年
- 「近隣諸国は安保継続を望んでいる」『革新』(民社党中央理論誌委員会) 42, 27-35頁 1974年1月1日
- 「特集 未来への出発 第一部 われわれの条件」『諸君!』6-1, 22-39頁 1974年1月1日

- 「誌上公開 アントニオーニの映画『中国』
『文藝春秋』52-7, 264-272頁 1974年
6月1日
- 「ドルベン・オイラトの起源」『史学雑誌』
83-6, 1-43頁 1974年6月20日
- 「日台空路はこうして切れた」『自由』（自
由社）16-7, 33-43頁 1974年7月1日
- 「『孔子批判』のこの一年」『自由世界』（自
由アジア社）11-6, 10-18頁 1974年7月
15日
- 1975年
- 「毛・周体制の終焉」『自由世界』（自由ア
ジア社）12-2, 10-17頁 1975年3月15日
- 「ダナン・ハーンの六万戸の起源」『榎博士
還暦記念東洋史論叢』（山川出版社）、
127-137頁 1975年11月9日
- 1976年
- 「現代史としての日本古代史1 東南アジア
に日本の古代を見た」『諸君！』8-1,
84-97頁 1976年1月1日
- 「日本古代史をどう読むか」『諸君！』8-
1, 118-121頁 1976年1月1日
- 「現代史としての日本古代史2 『魏志倭人
伝』と古代中国の文化大革命」『諸
君！』8-2, 164-179頁 1976年2月1日
- 「現代史としての日本古代史3 女の執念が
生んだ『日本書紀』」『諸君！』8-3,
166-183頁 1976年3月1日
- 「周恩来死後の中国」『自由世界』（自由ア
ジア社）13-2, 10-17頁 1976年3月15日
- 「現代史としての日本古代史4 初代の倭国
大王 仁徳天皇」『諸君！』8-4, 132-
147頁 1976年4月1日
- 「日本は今や文化大国」『言論人』（言論人
懇話会）303, 1頁 1976年4月15日
- 「現代史としての日本古代史5 大和朝廷は
実在しなかった」『諸君！』8-5, 226-
241頁 1976年5月1日
- 「現代史としての日本古代史6 『古事記』と
『三国史記』のニセ系図」『諸君！』8
-6, 198-212頁 1976年6月1日
- 「現代史としての日本古代史7 総合商社中
国と倭人の朝貢」『諸君！』8-7, 290-
305頁 1976年7月1日
- 「現代史としての日本古代史8 チャイナタ
ウンが歴史を作る」『諸君！』8-8,
198-212頁 1976年8月1日
- 「現代史としての日本古代史9 邪馬台国か
ら河内王朝へ」『諸君！』8-9, 198-
212頁 1976年9月1日
- 「現代史としての日本古代史10 難波津に咲
くやこの花」『諸君！』8-10, 222-
237頁 1976年10月1日
- 1977年
- 「恐妻家としての毛沢東」『月刊カレント』
（カレント出版委員会）14-1, 40-42頁
1977年1月1日
- 「逆説・江青を弁護する 本当の罪は華国鋒
らを信用したこと」『言論人』331, 2
頁, 1977年1月25日
- 「中国人と『ことば』 毛沢東語録引用の裏と
表」『正論』37, 124-127頁 1977年2月
1日
- 「新しい神話 — 騎馬民族説」『日本文化会
議月報』61, 1-2頁 1977年5月1日
- 「西域と卑弥呼 『親魏倭王』の正体」『月
刊シルクロード』3-4, 21-27頁
1977年5月1日
- 「漢字が苦手な中国人 なぜ文章家しか為政
者となれないか」『諸君！』9-6, 240-
248頁 1977年6月1日
- 「親魏倭王卑弥呼の正体」『歴史と人物』
（中央公論社）7-6, 130-139頁 1977年
6月1日
- 「文字の国の悲哀 — 漢字は中国語ではない
—」『月刊シルクロード』3-7, 70-75
頁 1977年8月1日
- 「第五章 真実と言葉」『講座・比較文化
第二巻 アジアと日本人』（研究社）
127-148頁 1977年11月30日
- 「第十章 秘密結社」『講座・比較文化 第二
巻 アジアと日本人』（研究社）249-272

- 頁 1977年11月30日
「中国意外史講座1 人口」『月刊シルクロード』3-10, 26-30頁 1977年12月1日
1978年
「中国意外史講座2 秘密結社」『月刊シルクロード』4-1, 15-19頁 1978年1月1日
「邪馬台国は存在しなかった」『歴史と旅』(秋田書店)5-1, 54-63頁 1978年1月1日
「日本の誕生 663年倭国水軍が白村江で敗れた直後」『読売新聞(夕刊)』1978年1月19日
「外圧の危機から誕生した古代日本」『言論人』(言論人懇話会)369, 1頁 1978年2月15日
「『魏志東夷伝』を評す」『古代東アジア史論集』(末松博士古希記念会編, 吉川弘文館)下巻, 35-56頁 1978年3月1日
「日韓古代史の考えかた」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』32, 27頁 1978年3月25日
「中国意外史講座3 恋愛」『月刊シルクロード』4-3, 32-36頁 1978年4月1日
「日本における古代王朝 騎馬民族説考」『高校通信東書 日本史・世界史』34, 2-5頁 1978年4月1日
「日中関係の今後 — 三菱と尖閣列島と —」『自由世界』(自由アジア社)15-4, 12-20頁 1978年5月15日
「中国意外史講座4 恐妻」『月刊シルクロード』4-6, 30-34頁 1978年7月1日
「正論・日本語人造語論 いままでの国語学ではわからない」『言論人』389, 2頁 1978年9月5日
「中国意外史講座5 食人」『月刊シルクロード』4-8, 41-45頁 1978年10月1日
「三世紀の東アジアと日本」『産報デラックス 99の謎』(サンボウジャーナル)3-15, 92-93頁 1978年10月25日
「倭人とシルクロード」『東アジアの古代文化』17, 2-14頁 1978年10月31日
「中国意外史講座6 結婚」『月刊シルクロード』4-10, 38-42頁 1978年12月1日
1979年
「中国意外史講座7 性」『月刊シルクロード』5-1, 46-50頁 1979年1月1日
「康熙帝, 朱筆の陣中便り」『諸君!』11-1, 200-211頁 1979年1月1日
「なぜ中国人はロシア人を嫌いか 対立の文化史的考察」『正論』62, 86-96頁 1979年1月1日
「ベトナム五百年の執念 歴史にみるカンボジア征服の経緯」『言論人』403, 2頁 1979年1月25日
「片思い, 日本人の中国好き」『文化会議』117, 2-9頁 1979年3月1日
「商業的性格の強い中国の都市」『文化と国土設計に関する調査』(日本文化会議), 57-63頁 1979年3月24日
“Outer Mongolia through the eyes of Emperor K'ang-hsi.”『昭和53年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書 課題番号231060 内陸アジア史研究』(松村潤編), 72-90頁 1979年3月
「甦える古代の真実とロマン」『正論』65, 206-213頁 1979年4月1日
「中国意外史講座8 神」『月刊シルクロード』5-3, 55-59頁 1979年4月1日
「中国に片思いしている日本人」『30億』(日本青年会議所), 14-18頁 1979年5月1日
「中国意外史講座9 死」『月刊シルクロード』5-4, 65-69頁 1979年5月1日
「鄧小平の中国 日中・米中・中越・台湾関係」『自由世界』(自由アジア社)16-4, 12-22頁 1979年5月15日
「鄧小平の中国語学習法 祖国統一は中華民国承認?」『言論人』(言論人懇話会)414, 2-3頁 1979年5月15日
「漢人商人の活躍」『えとのす』(新日本教育図書)12, 36-40頁 1979年5月25日
「中国意外史講座10 笑」『月刊シルクロード』

- ド』5-5, 23-27頁 1979年6月1日
 “Chinese images of Japan.” 『国際東方学者
 会議紀要』(東方学会) 24, 129-140頁
 1979年6月16日
 「魯迅のなかの日本人」 『中央公論』 94-7,
 164-181頁 1979年7月1日
 「日台空路はこうして切れた」 『現代のエス
 プリ』(至文堂) 145, 116-127頁
 1979年8月1日 (再録)
 「極東の軍事情勢と日本の安全保障」 『文化
 会議』 122, 2-14頁 1979年8月1日
 「ウバシ・ホンタイジ伝考釈」 『内陸アジア
 史論集 第二』(国書刊行会), 87-102頁
 1979年9月25日 (再録)
 「外国人の日本人観」 『国際誤解の構造』
 (日本文化会議編, PHP研究所) 15-40
 頁 1979年9月25日
 「モンゴル人の戦争」 『月刊シルクロード』
 5-8, 29-33頁 1979年10月1日
 “Traditional culture: Its present state and
 changing roles in industrializing socie-
 ty.” *Proceedings of the 4th Asian
 Cultural Scholars' Convention, October
 23-26, 1979, Asian Parliamentarians'
 Union, Seoul.* 134-143頁 1979年10月23-
 26日
 “Outer Mongolia through the eyes of
 Emperor K'ang-hsi” 『アジア・アフリ
 カ言語文化研究』 18, 1-11頁 1979年12月
 25日
 “How Hong Taiji came to the throne.”
Central Asiatic Journal, 23-3/4, 1979.
 “Galdan's death: When and how” *Memoirs
 of the Research Department of the
 Toyo Bunko*, 37, 91-97頁 1979.
 1980年
 「北京は中華民国を承認する」 『諸君!』
 12-1, 26-38頁 1980年1月1日
 「征服王朝と被征服文化—八旗・北京官話・
 子弟書—」 『月刊シルクロード』 6-2,
 16-20頁 1980年2月1日
 「中国人はなぜ日本に無関心なのか」 『中央
 公論』 1117, 194-205頁 1980年3月1日
 「'80年は“おんなの時代”か—ユニセック
 ス文化・日中比較論—」 『正論』 77,
 62-71頁 1980年4月1日
 「陸士同期留学生の中国革命」 『中央公論』
 95-10, 166-181頁 1980年8月1日
 「中国史のなかの日本建国」 『無限大』(日
 本アイ・ビー・エム) 50, 23-30頁
 1980年9月1日
 「大平合同葬の七不思議」 『諸君!』 12-9,
 52-59頁 1980年9月1日
 「中国病の研究—四つの現代化はなぜ失敗す
 るか—」 『月曜評論』 502, 1頁 1980年
 9月15日
 「国民党と台湾人」 『海外事情』(拓殖大学
 海外事情研究所) 28-11, 6-13頁 1980年
 11月5日
 「日本を愛した中国人—陶晶孫の生涯と郭沫
 若」 『中央公論』 95-15, 184-199頁
 1980年12月1日
 「東アジアにおける日本人のイメージ」 『国
 際誤解と日本人』(日本文化会議編, 三
 修社) 77-99頁 1980年12月20日
 1981年
 「病める中国—建国以来30年—一体何をしてき
 たのか—」 『月曜評論』 523, 1頁 1981年
 2月2日
 「中国病に根本療法はあるのか」 『中央公
 論』 96-4, 122-139頁 1981年4月1日
 「陶晶孫伝稿」 『論集 近代中国研究』(山川
 出版社), 45-76頁 1981年7月15日
 「第四章 モンゴルの統一」 『世界各国史12
 北アジア史(新版)』(護雅夫・神田信夫
 編, 山川出版社) 135-182頁 1981年8月
 20日
 「第五章 モンゴルの分裂」 『世界各国史12
 北アジア史(新版)』(護雅夫・神田信夫
 編, 山川出版社) 183-228頁 1981年8月
 20日
 「康熙帝と天文学」 『歴史と地理』 123,

- 31-33頁 1981年 8月20日
- “From Chinese to Japanese: An insight into the ethnic environment at the founding of the Kingdom of Japan in 668.” *The Bulletin of the International Institute for Linguistic Sciences, Kyoto Sangyo University*, 11-4, pp.231-241. 1981年 9月30日
- 「中国人はアメリカ人が嫌い」 『正論』(サンケイ出版) 97, 128-134頁 1981年11月1日
- 1982年
- 「康熙帝・雍正帝・乾隆帝」 『人物 中国の歴史 9 激動の近代中国』(集英社) 155-188頁 1982年 2月20日
- 「“教科書検定”は中国の内政問題だ」 『中央公論』 97-10, 82-96頁 1982年10月1日
- 1983年
- 「モンゴル親征時の聖祖の満文書簡」 『内陸アジア・西アジアの社会と文化』(護雅夫編, 山川出版社) 303-321頁 1983年 6月30日
- 「第1章 東アジア大陸における民族」 『民族の世界史 5 漢民族と中国社会』(橋本萬太郎編, 山川出版社) 47-110頁 1983年 12月24日
- 1984年
- 「サルフの戦い—後金国ハン・ヌルハチと明国」 『日本古代文化の探究 戦』(社会思想社) 225-246頁 1984年 1月30日
- 「中国が日本に朝貢する時代」 『諸君!』 16-3, 200-212頁 1984年 3月1日
- “Mongol chronicles and Chinggisid genealogies” 『アジア・アフリカ言語文化研究』 27, 147-154頁 1984年 3月31日
- “The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči*” 『アジア・アフリカ言語文化研究』 27, 155-162頁 1984年 3月31日
- “The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči* (Abstract.)” XXXI *International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa. 1983: Proceedings, I*, pp. 345-346. 東方学会 1984年 3月
- 「日本の古代政権は大陸の影響のもとに成立した」 『歴史読本』(新人物往来社) 29-10, 50-52頁 1984年 6月10日
- 「邪馬台国は存在しなかった」 『歴史と旅』(秋田書店) 11-11, 280-290頁 1984年 8月20日
- “Mongol chronicles and Chinggisid genealogies.” 『第一届亞洲族譜學術研討會會議記錄』(聯合報文化基金会国学文献館) 39-55頁 1984年 9月
- 1985年
- 「徳王と日本とモンゴル独立運動—傀儡か, 民族の英雄か」 『月曜評論』 728/729, 4頁 1985年 1月7/14日
- 「元朝秘史の成立」 『東洋学報』 66-1/2/3/4, 157-177頁 1985年 3月25日
- 「解説」 『札奇斯欽著 我所知道的徳王和當時の内蒙古(一)』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 105-109頁 1985年 3月31日
- “Life and work of Dayan Khan” 『国際中国边疆學術會議論文集』 491-505頁 1985年 4月
- 「特集・三国志 地政学的考察」 『Will』(中央公論社) 6月特別号, 72-75頁 1985年 6月1日
- 「札奇斯欽著『我所知道的徳王和當時の内蒙古(一)』解説」 『日本とモンゴル』(日本モンゴル協会) 20-1, 87-90頁 1985年 8月(再録)
- “Five Tibeto-Mongolian sources on the Rje btsun dam pa Qutuytus of Urga” 『国立政治大学辺政研究所年報』 16, 225-234頁 1985年10月
- 「韓国史をどう見るか—東北アジア史からの視点」 『月曜評論』 771, 2頁 1985年 11月14日
- “The Koreans in Manchuria in the Yuan times” 『韓国学報』 第5期, 181-200頁

- 1985年12月
1987年
“The fall of the Uriyangqan Mongols” *Mongolian Studies* (The Mongolia Society) 10, pp. 49-57, 1986-87.
- “Origins of the Dörben Oyirad” *Ural-Altische Jahrbücher, Neue Folge*, Band 7, S. 181-211, 1987.
- 1988年
「ウリヤンハン・モンゴル族の滅亡」『榎博士頌寿記念東洋史論叢』（汲古書院）43-58頁 1988年11月11日
- 1989年
“The lost Manchu original of *Meng-ku Shih Hsi P'u* by Lomi.” 『第二届中国域外漢籍国際学術会議論文集』（聯合報文化基金会国学文献館，台北）1009-1021頁 1989年2月
- “The Chinggis Khan shrine and *The Secret History of the Mongols*.” *Religious and Lay Symbolism in the Altaic World and Other Papers*. ed. Klaus Sagaster, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, pp.284-292, 1989.
- “Jesuit influence in Emperor K'ang-hsi's Manchu letters.” *Proceedings of the XXVIII Permanent International Altaistic Conference, Venice 8-14 July 1985*, ed. Giovanni Stary, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, pp.165-171, 1989.
- “Dayan Khan in the Battle of Dalan Terigün.” *Gedanke und Wirkung: Festschrift zum 90. Geburtstag von Nikolaus Poppe*, ed. Walther Heissig & Klaus Sagaster, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, pp.262-270, 1989.
- 1990年
「中国人の日本観」『週刊新潮』35-8, 66頁 1990年2月22日（ダイジェスト）
「中国人の日本観」『諸君！』22-3, 186-194頁 1990年3月1日
- 「チベットの運命 — ダライ・ラマ十四世のノーベル平和賞受賞に寄せて —」
『文化会議』250, 38-41頁 1990年4月1日
- 「序章 中央ユーラシアの歴史世界」『民族の世界史4 中央ユーラシアの世界』（山川出版社）1-21頁 1990年6月25日
- 「第3部 モンゴル系民族」『民族の世界史4 中央ユーラシアの世界』（山川出版社）269-270頁 1990年6月25日
- 「大嘗祭は冬至祭である」『週刊読売』49-51, 101頁 1990年11月27日
- “The Chakhar shrine of Eshi Khatun.” *Aspects of Altaic Civilization III*, Indiana University Uralic and Altaic Series 145, ed. Denis Sinor, Bloomington, Indiana, 1990, pp. 176-186.
- “Dayan Khan in *The Biography of Altan Khan*.” *Altaica Osloensia, Proceedings from the 32nd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Oslo. June 12-16. 1989*, ed. Bernt Brendemoen, Oslo, 1990, pp. 249-258.
- 1991年
「北アジアの民族史 “モンゴル民族” を創ったチンギス・ハーン」『歴史群像シリーズ25 チンギス・ハーン 上巻』（学習研究社）36-39頁 1991年9月30日
- 「モンゴルの思想と風俗 大草原に生きた遊牧民の知恵と掟」『歴史群像シリーズ25 チンギス・ハーン 上巻』（学習研究社）40-45頁 1991年9月30日
- 「バトゥが大西洋に達していたら…… 十八世紀まで西ヨーロッパを統括」『歴史群像シリーズ26 チンギス・ハーン 下巻』（学習研究社）92-95頁 1991年12月1日
- 「社会主義国家とモンゴル世界 ソ連も中国も帝国の継承国家だ」『歴史群像シリーズ26 チンギス・ハーン 下巻』（学習研究社）96-99頁 1991年12月1日

“Origin of the Čaqaq Mongols.” *Mongolian Studies*. Journal of the Mongolia Society, The Hangin Memorial Issue, Volume XIV, pp.155-179, 1991.

1992年

「中国文明における歴史」 『歴史のある文明 歴史のない文明』(筑摩書房) 3-25頁
1992年1月25日

“The Third Dalai Lama and Altan Khan of the Tümed” *Tibetan Studies, Proceedings of the 5th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Narita 1989, Volume 2*, pp. 643-652. 1992年8月15日

「邪馬台国は存在しなかった」 『歴史と旅』
19巻17号臨時増刊号(秋田書店) 42-51
頁 1992年11月5日 (再録)

“Mandarin, a language of the Manchus: How Altaic?” *Aetas Manjurica*, Tomus 3, pp. 165-187. Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1992.

“The Yüan seal in the Manchu hands: The source of the Ch’ing legitimacy” *Altaic Religious Beliefs and Practices, Proceedings of the 33rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Budapest June 24-29, 1990*, Research Group for Altaic Studies, Department of Inner Asiatic Studies, Eötvös Loránd University, pp. 267-270, 1992.

1993年

「後書」 『札奇斯欽著 我所知道的徳王和當時の内蒙古(二)』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 220-221頁 1993年2月1日

「蒙古襲来 — なぜモンゴルは日本に来たか」
『見る・読む・わかる 日本の歴史2 中世』(朝日新聞社) 36-37頁 1993年2月20日

「司馬懿仲達「最終勝利者論」 6 魏朝地政

論 魏・晋軍事大国への条件」 『歴史群像』(学習研究社) 6, 120-121頁 1993年4月1日

「司馬懿仲達「最終勝利者論」 7 時代状況論 揺れ動く「世界史の舞台」 『歴史群像』(学習研究社) 6, 122-125頁 1993年4月1日

発言記録

1968年

「カルムィク文学『ウバシ・ホンタイジ伝』について」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 4, 19-20頁 1968年3月30日 (講演要旨)

「皇帝・内務府・八旗」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 5, 35-36頁
1968年9月5日 (講演要旨)

1971年

「周恩来 — その実像と虚像」 『諸君!』 3-10, 142-151頁 1971年10月1日 (座談会)

「林彪“失脚”がささやかれる中国に何が起きた」 『週刊現代』(講談社) 13-54, 172-175頁 1971年12月2日 (談話)

「チンギス・ハーン崇拜とモンゴル文学」
『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 14, 35頁 1971年12月20日 (講演要旨)

1972年

「『人民日報』の読み方教えます」 『文藝春秋』 50-9, 146-156頁 1972年7月1日 (座談会)

「毛沢東以後の中国」 『講演資料』(公共企業体等労働問題研究センター) 25, 1-35頁 1972年10月15日 (8月25日講演筆記)

「日中国交の実体はどう動く」 『新聞通信調査会報』(新聞通信調査会) 120, 1-7頁
1972年12月1日 (座談会)

1973年

「その後の中国情勢」 『言論人』(言論人懇

- 話会) 195, 2-3頁 1973年4月15日 (対談)
- 『周総理と宮本委員長が握手する日』を徹底追及! 『週刊大衆』(双葉社) 16-15, 22-25頁 1973年4月19日 (談話)
- 1974年
- 「特集 未来への出発 第三部 日本はどこへ行くのか」 『諸君!』 6-1, 54-79頁 1974年1月1日 (座談会)
- 「日台破局で中国もガッカリという大平外交の失敗」 『週刊文春』 16-19, 30-33頁 1974年5月13日 (談話)
- 「天下大動乱の底流をさぐる」 『諸君!』 6-8, 50-65頁 1974年8月1日 (座談会)
- 「孔子批判」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 22, 2頁 1974年10月1日 (6月19日講演要旨)
- 1976年
- 「シンポジウム 日本の経済外交」 『自由』(自由社) 18-4, 48-77頁 1976年4月1日 (討論)
- 「シンポジウム 日本の経済外交 世界のなかの日本経済」 『自由』 18-6, 149-180頁 1976年6月1日 (討論)
- 「シンポジウム 日本の経済外交 変る世界と南北問題(上)」 『自由』 18-7, 161-178頁 1976年7月1日 (討論)
- 1977年
- 『国際関係における政治と経済—自由貿易体制の将来と日本の生き方—』日本文化会議月例懇談会収録集93, 1-36頁 1977年3月 (討論)
- 「歴史から見た女性」 『女性のすべて』(会田雄次編, 高木書房) 13-90頁 1977年4月7日 (討論)
- 『中国古典思想と現代』日本文化会議月例懇談会収録集94, 1-22頁 1977年4月 (討論)
- 『サーカスが来たころ—アメリカの「鍍金時代」文化について』日本文化会議月例懇談会収録集98, 1-21頁 1977年8月 (討論)
- 論)
- 『ロシアとは何か—その歴史から学ぶ—』日本文化会議月例懇談会収録集101, 1-22頁 1977年10月 (討論)
- 1978年
- 『インカ帝国とプレ・インカ文明』日本文化会議月例懇談会収録集104, 1-16頁 1978年1月31日 (討論)
- 『法と暴力』日本文化会議月例懇談会収録集106, 1-27頁 1978年3月31日 (討論)
- 「アジアを論じて日本語論に至る」 『言語生活』(筑摩書房) 322, 2-14頁 1978年7月1日 (討論)
- 「邪馬台国と倭国」 『東アジアの古代文化』(大和書房) 16, 2-21頁 1978年7月10日 (討論)
- 「スターリンも死後批判されたが毛沢東も必至の運命」 『日刊ゲンダイ』(講談社) 919, 1-2頁 1978年11月22日 (談話)
- 「米中国交樹立で予想される専門家が見た国際的大激変と日本のショック」 『日刊ゲンダイ』(講談社) 941 1978年12月19日 (談話)
- 1979年
- 「ドイツ人と日本人」 『文化会議』 115, 2-12頁 1979年1月1日 (討論)
- 「韓国人と日本人」 『文化会議』 116, 2-14頁 1979年2月1日 (討論)
- 「ソ連世界戦略の筋書き通り! 中国・ベトナム戦争の読み方」 『週刊文春』 21-9, 152-155頁, 1979年3月1日 (談話)
- 「日本の都市と国土計画」 『文化と国土設計に関する調査』(日本文化会議) 95-111頁 1979年3月24日 (討論)
- 「第3回オピニオン・リーダーとの懇談会」 『経済広報センター資料』 1-16頁 1979年4月11日 (討論)
- 「フランス知識人とカミュ」 『文化会議』 121, 2-14頁 1979年7月1日 (討論)
- 「極東の軍事情勢と日本の安全保障」 『文化会議』 122, 2-14頁 1979年8月1日

- (討論)
- 「東アジアにおける日本人のイメージ」『文化会議』123, 32-39頁 1979年9月1日 (講演筆記)
- 『国際誤解の構造』日本文化会議編, PHP研究所, 1-293頁 1979年9月25日 (討論)
- 『アジア文明の原像』(飯島茂編, 日本放送出版協会) 1-295頁 1979年10月1日 (討論)
- 「朴大統領暗殺の謎」『週刊文春』1058, 22-28頁 1979年11月8日 (談話)
- 1980年
- 「大阪財界人の日本の徴兵制検討が必要だという発言の波紋と解決策」『日刊ゲンダイ』(講談社) 1287, 3頁 1980年2月19日 (談話)
- 「日本共産党で何が起きているか」『サンデー毎日』59-9, 22-28頁 1980年3月2日 (談話)
- 『西欧の正義 日本の正義』(日本文化会議編, 三修社) 1-313頁 1980年3月15日 (討論)
- 「ソ連の野望 (ハラショー) 中国の没法子 (メイファーズ)」『諸君!』12-6, 70-81頁 1980年6月1日 (対談)
- 「東京会議 国際協力の理想を求めて 文化の多様性と近代化」『読売新聞』昭和55年7月2日号, 12-13頁 (討論筆記)
- “Plurality of cultures and modernization.” *The Daily Yomiuri*, July 2-8, 1980. 1980年7月2日 (討論筆記)
- 「『人民日報』日本総代理店主になった元朝日・秋岡家栄“文革礼賛記者”」『週刊文春』22-44, 1980年10月30日 (談話)
- 「鄧体制揺るがす経済危機と食糧不足」『日刊ゲンダイ』(講談社) 1540, 2頁 1980年12月20日 (談話)
- 「文化の多様性と近代化」『東京会議報告書 X 国際協力の理想を求めて — 80年代への期待 シンポジウム』(東京会議事務局) 43-57頁 1980年12月 (討論筆記)
- “Plurality of cultures and modernization.” *Annual Report, In Search of the Ideal Form of International Cooperation, The Series of Symposia, Tokyo Colloquium, 1980*, pp.51-64. 1980年 (討論筆記)
- 1981年
- 「タカとハト — 言葉と現実のあいだ —」『諸君!』13-2, 42-55頁 1981年2月1日 (対談)
- 「世界中を味方につけた『江青・張春橋』が復活する日」『週刊現代』(講談社) 23-7, 30-33頁 1981年2月12日 (談話)
- 「日本建国前のアジア情勢」『いま, ふたたび日本を視る 文化講演会記録集No. 6』(横浜市教育文化センター) 1981年3月31日 (講演筆記)
- 1982年
- 「日本のプレゼンス」『適応力 新しい日本人の条件』(日本文化会議編, 三修社) 123-146頁 1982年1月15日 (講演筆記)
- 「特別座談 大陸文化と古代韓国」『アジア公論』(韓国国際文化協会) 11-2, 34-51頁 1982年2月5日 (金芳漢, 秋聖七との座談会)
- 「日本語起源論争第6弾 大野晋教授はハダカのカの王様だ」『週刊文春』24-6, 140-142頁 1982年2月11日 (談話)
- 「周遠廉『清朝の皇族 — 睿王府の盛衰をめぐって —』」『学術国際交流資料集No. 80 明治大学学術国際交流委員会第76回スタッフセミナー』1982年6月22日 (質問)
- 「中国党大会の“寝たきり”幹部は葉剣英」『週刊文春』24-36, 160-161頁 1982年9月16日 (談話)
- 「丹沢一延のインタビュールーム」『商工ジャーナル』(日本商工経済研究所) 8-10, 28-31頁 1982年9月20日 (対談)
- 「魏志倭人伝はこう読むべきだ」『歴史と人物』(中央公論社) 138, 72-89頁

- 1982年10月1日 (対談)
 「軍が鄧批判に利用 奇怪な中国の教科書攻撃」『思想新聞』(国際勝共連合) 528, 3頁 1982年10月11日 (談話)
 「『倭人伝』をどう読むか」『倭人伝を読む』(森浩一編, 中央公論社, 中公新書665) 3-63頁 1982年10月25日 (森浩一との対談)
 「紙上講座 中国人の特質を探る」『松下政経塾報』11, 1982年11月 (講演要旨)
 1983年
 「日米を操る隣国の外交政策」『文化会議』167, 26-34頁 1983年5月1日 (講演筆記)
 「東アジアにおける日本人のイメージ」『国際誤解と日本人』(日本文化会議編, 三修社) 77-99頁 1983年6月15日 (講演筆記)
 「中ソ特権階級の栄耀栄華」『諸君!』(文藝春秋) 15-8, 214-232頁 1983年8月1日 (対談)
 「日本のプレゼンス」『日本人の条件—適応力』(日本文化会議編, 三修社) 123-146頁 1983年8月15日 (講演筆記)
 「偏向報道はなぜ生まれるのか」『月曜評論』664, 2-3頁 1983年10月17日 (対談)
 「モンゴル史料について」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』49, 43-45頁 1983年11月25日 (講演要旨)
 「文化の表現としての外交」『成熟社会への条件』(日本文化会議編, 三修社) 83-102頁 1983年12月15日 (講演筆記)
 1986年
 『蒙古自治運動と日中関係』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 新井経済研究所, 1-41頁 1986年1月14日 (講演筆記)
 『満洲民族はいかに中国を創ったか』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 新井経済研究所, 1-37頁 1986年5月28日

(講演筆記)

1987年

- 『日本人単一民族論の再検討—特に東北アジアの歴史の中で—』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 新井経済研究所, 1-32頁 1987年2月16日 (講演筆記)
 『中央アジアを考える—歴史と現実—』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 新井経済研究所, 1-31頁 1987年9月18日 (講演筆記)

1988年

- 『中国史から見た民族問題』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-37頁 1988年5月26日 (講演筆記)

1989年

- 『台湾の歴史と将来—民族問題を中心として—』国際関係基礎研究所, 1-35頁 1989年11月13日 (講演筆記)

1990年

- 「日本文化会議年次集会シンポジウム『昭和史の検証 内と外からの視点』」『文化会議』247, 34-35頁 1990年1月1日 (質問)
 『二十一世紀の中国と日本—激動する世界史の中で新しい日中関係を求める—』国際関係基礎研究所, 1-36頁 1990年4月5日 (講演筆記)
 「上垣外憲—雨森芳洲と新井白石」『文化会議』252, 12-20頁 1990年6月1日 (質問)
 「ユーラシア大陸の歴史と民族—草原の民が「世界史」を創る—」『文化会議』253, 20-37頁 1990年7月1日 (講演筆記)
 『ソ連の民族問題』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-43頁 1990年7月11日 (講演筆記)
 『民族の世界史 I』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究

- 所, 1-39頁 1990年11月2日 (講演筆記)
- 「中国文明の構造と発展」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』70, 39-40頁 1990年11月25日 (講演要旨)
- “Why Japanese use Chinese characters.” *The SIETAR Newsletter*, Winter 1990, pp.11, 9. 1990年 (講演要旨)
- 1991年
- 「ハイテクで探る日本人のルーツ 3 大戦争を収めた卑弥呼のセクシーな魅力」『週刊朝日』96-4, 132-135頁 1991年2月1日 (談話)
- 『民族の世界史 II』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-44頁 1991年2月15日 (講演筆記)
- 「中央ユーラシア史の可能性」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』71, 53-58頁 1991年3月25日 (講演要旨)
- 『民族の世界史 III』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-39頁 1991年4月15日 (講演筆記)
- 『民族の世界史 IV』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-43頁 1991年7月31日 (講演筆記)
- 1992年
- 『世界史からみた現代東アジア』エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 国際関係基礎研究所, 1-42頁 1992年4月9日 (講演筆記)
- 「対談によるブックガイド 『歴史』の本〈上〉」『本』(講談社) 17-10, 8-13頁 1992年10月1日 (三浦雅士との対談)
- 「「遊牧の道」を行く 3 二つの影 見失われた伝統と文化」『朝日新聞夕刊』1992年10月5日, 4版, 8頁 1992年10月5日 (談話)
- 「対談によるブックガイド 『歴史』の本〈下〉」『本』(講談社) 17-11, 32-38頁 1992年11月1日 (三浦雅士との対談)
- 「楊国家主席兄弟の『失権』 NHK ニュースの『行方』 『週刊新潮』(新潮社) 37-49, (12月24・31日号), 51-54頁 1992年12月24日 (談話)
- 1993年
- 「アメリカの「正義」と「狂気」 問題提起 「自由」と「民主主義」を旗印に暴走する危険はないか」『Sapio』(小学館) 5-3, 10-13頁 1993年2月25日 (談話要約)
- 「世界史はモンゴルの賜 「歴史」の本」『この本がいい 対談による「知」のブックガイド』(三浦雅士編, 講談社) 67-94頁 1993年3月20日 (三浦雅士との対談, 再録)
- 「世界史の誕生」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』77, 51-53頁 1993年3月25日 (講演要旨)
- 「特集官僚王国解体論 それは孔子から始まった 賄賂から天下りへ「官僚の世界史」 『現代』27-4, 214-222頁 1993年4月1日 (談話要約)
- 学界事情
- 1956年
- 「回顧と展望 満洲・朝鮮」『史学雑誌』(史学会) 65-5 1956年5月
- 1958年
- 「回顧と展望 満洲・朝鮮」『史学雑誌』67-5, 126-129頁 1958年5月20日
- 1962年
- 「回顧と展望 満洲・蒙古・シベリア」『史学雑誌』71-5, 211-216頁 1962年5月20日
- 1964年
- 「第七回PIACの開催」『東洋学報』47-3, 147-150頁 1964年12月31日

1966年

- 「回顧と展望 満洲・蒙古」『史学雑誌』75-5, 245-248頁 1966年5月20日
 「第三回若手アルタイ学・中央アジア研究者集会」『東洋学報』49-2, 129-133頁 1966年9月30日

1967年

- 「第四回若手アルタイ学・中央アジア研究者集会」『東洋学報』50-2, 132-133頁 1967年9月30日
 「第4回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』3, 18-19, 5頁 1967年11月1日

1968年

- 「第五回アルタイ学・中央アジア研究者集会」『東洋学報』51-2, 96-98頁 1968年9月30日

1969年

- 「第5回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』6, 24-26頁 1969年1月25日
 「第5回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究』2, 204-210頁 1969年3月31日
 「第六回アルタイ学・中央アジア研究者集会」『東洋学報』52-2, 121-122頁 1969年9月30日
 「第三回東亜アルタイ学会」『東洋学報』52-2, 122-127頁 1969年9月30日
 「二つの学会に出席して 第3回東亜アルタイ学会 第6回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』8, 10-15頁 1969年12月25日

1970年

- 「第6回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究』3, 258-264頁 1970年7月25日
 「第7回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』11, 20-21頁 1970年12月20日

1972年

- 「第8回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』15, 15-18頁 1972年3月15日
 「第四回東亜アルタイ学会」『東洋学報』54-4, 101-106頁 1972年3月31日
 「回顧と展望 北アジア」『史学雑誌』81-5, 239-244頁 1972年5月20日
 「第四回東亜アルタイ学会」『創文』（創文社）109, 19-23頁 1972年6月1日
 「第4回東亜アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』16, 25-27頁 1972年8月31日
 「第9回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』17, 26-29頁 1972年12月15日

1973年

- 「アルタイ学辞典の編纂」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』19, 18-19頁 1973年8月31日
 “History of Inner Asia” *Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect 1963-1972*, Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo, pp. 1-17. 1973年

1974年

- 「アルタイ学辞典の編纂」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』22, 27頁 1974年10月1日

1975年

- 「アルタイ学辞典の編纂」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』24, 32-33頁 1975年8月15日

1976年

- 「昭和50年度東洋史研究会大会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』26, 25-26頁 1976年3月25日
 「内陸アジア史学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』26, 26頁 1976年3月25日
 「東方学会第25回会員総会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』26, 26頁

1976年 3月25日

1977年

「アジア社会の原構造と変容過程の研究」
『アジア・アフリカ言語文化研究所通
信』29, 35頁 1977年 3月25日

1978年

「第20回PIAC」 『アジア・アフリカ言語文
化研究所通信』32, 14-15頁 1978年 3月
25日

「トゥッペン・ジグメ・ノルブ教授」 『アジ
ア・アフリカ言語文化研究所通信』34,
25頁 1978年11月25日

「国際清史檔案研究会」 『アジア・アフリカ
言語文化研究所通信』34, 29-31頁 1978
年11月25日

「第15回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』34, 33-34頁
1978年11月25日

「国際清史檔案研究会」 『東洋学報』60-
1/2, 208-217頁 1978年11月25日

「第十五回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』
60-1-2, 217-222頁 1978年11月25日

1979年

「ポール・M・トンプソン博士」 『アジア・
アフリカ言語文化研究所通信』37, 38頁
1979年11月25日

「第16回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』37, 41-45頁
1979年11月25日

「第十六回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』
61-1/2, 216-225頁 1979年12月15日

1980年

「第五回東亜アルタイ学会」 『東洋学報』
61-3/4, 144-147頁 1980年 3月22日

「第5回東亜アルタイ学会」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』38, 39-40
1980年 3月25日

「第17回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』40, 37-41頁
1980年11月25日

「第十七回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』

62-1/2, 172-178頁 1980年12月22日

1981年

「故坂本是忠先生の業績」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』43, 2頁
1981年11月25日

1982年

「第18回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』44, 28-31頁
1982年 3月25日

「第6回東亜アルタイ学会」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』44, 41-44頁
1982年 3月25日

「第十八回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』
63-3/4, 208-213頁 1982年 3月25日

「第六回東亜アルタイ学会」 『東洋学報』
63-3/4, 214-219頁 1982年 3月25日

「プロフィール：ゴンボジャブ・ハンギン博
士」 『アジア・アフリカ言語文化研究所
通信』46, 20頁 1982年11月25日

「第19回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』46, 35-38頁
1982年11月25日

1983年

「第十九回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』
64-1/2, 199-204頁 1983年 1月25日

「プロフィール スチン・ジャクト教授」
『アジア・アフリカ言語文化研究所通
信』49, 13頁 1983年11月25日

「第20回野尻湖クリルタイ」 『アジア・アフ
リカ言語文化研究所通信』49, 24-28頁
1983年11月25日

「第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会
議, 第6部会」 『アジア・アフリカ言語
文化研究所通信』49, 29-35頁 1983年11
月25日

1984年

「第二十回野尻湖クリルタイ」 『東洋学報』
65-1/2, 157-165頁 1984年 1月25日

“Section VI, Altaic Peoples … History,
Culture and Languages.” XXXI *Inter-
national Congress of Human Sciences*

- in Asia and North Africa, 1983: Proceedings, I*, pp.315-316. 東方学会
1984年3月
- 1985年
- 「国際中国边疆学術会議」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』53, 22-27頁
1985年3月25日
- 「第27回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』53, 27-32頁
1985年3月25日
- 「第21回野尻湖クリルタイ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』53, 32-37頁
1985年3月25日
- 「第28回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』55, 38-40頁
1985年11月25日
- 1986年
- 「〈プロフィール〉 イーゴル・デ・ラケヴィルツ博士」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』57, 22頁 1986年8月30日
- 「特集=第32回国際アジア・北アフリカ研究会議 (ICANAS) 部会報告・内陸アジア史」『東方学会報』51, 17-18頁, 1986年12月25日
- 「国際中国少数民族言語文化歴史シンポジウム」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』58, 37-39頁 1986年12月25日
- 「第32回国際アジア・北アフリカ研究会議」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』58, 43-46頁 1986年12月25日
- 1987年
- 「第29回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』59, 43-47頁
1987年3月25日
- 「第30回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』61, 37-40頁
1987年11月25日
- 1988年
- 「第31回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』64, 30-32, 45頁 1988年12月20日
- 1989年
- 「第32回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』67, 52-57頁
1989年11月25日
- “The Fifth International Seminar on Tibetan Studies.” *International Association for Mongol Studies Bulletin*, 2(4), pp.56-60, Ulaanbaatar, 1989.
- 1990年
- 「第五回国際チベット学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』68, 42-45頁
1990年3月25日
- 「ケンブリッジ大学モンゴル・内陸アジア研究施設 附英国モンゴル協会」『日本モンゴル学会紀要』20, 87-90頁 1990年3月31日
- 「ドナウ河畔のアルタイ学会」『ドナウ通信』(在ブダペスト日本人会会報) 6, 1-2頁 1990年9月26日
- 「第33回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』70, 32-38頁
1990年11月25日
- 1991年
- 「国際セミナー『モンゴル帝国とその遺産』」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』72, 54-59頁 1991年7月25日
- 「第34回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』73, 62-68頁
1991年11月25日
- 1992年
- 「プロフィール ハンス=ペーター・フィーツェ教授」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』74, 12頁 1992年3月25日
- 「蒙古文化国際学術研討会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』76, 35-40頁
1992年11月25日
- 1993年
- 「第35回国際アルタイ学会」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』77, 22-30頁
1993年3月25日

翻訳

- 1958年
「G. W. ロビンソン 旧事本紀攷」 『東洋学報』(東洋学術協会) 41-1 1958年6月30日
- 1968年
Ch'en Ching-ho, *The Chinese community in the sixteenth century Philippines*. East Asian Cultural Studies Series, No.12. The Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo, 1968. (中文より英訳)
- 1976年
『E. D. フィリップス著 モンゴル史』 学生社, 1-208頁 1976年8月20日
- 1983年
「Gombojab Hangin 中国の文化大革命と内モンゴルの文学」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 49, 51-53頁 1983年11月25日
- 1985年
「ニコラス・ポッペ著『ニコラス・ポッペ自叙伝』抄」 『東方学』 60, 140-157頁 1985年1月31日
「ミハエル・ヴァイアース著「ヴァルター・ハイシヒと戦後ドイツにおけるモンゴル学」」 『東方学』 69, 158-162頁 1985年1月31日
「バーバラ・ニムリ・アジーズ 国際チベット学会第3回大会紀要の刊行」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 55, 9-10頁 1985年11月25日
- 1986年
「イーゴル・デ・ラケヴィルツ チンギス・ハーンと空気銃」 『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』 57, 23頁 1986年8月30日
- 1987年
「デニス・サイナー教授小伝」 『東方学』 74, 136-143頁, 1987年7月

書評

- 1958年
「余元菴『内蒙古歴史概要』」 『東洋学報』 41-1, 140-141頁 1958年6月30日
「蘇聯科学院・蒙古人民共和国科学委員会『蒙古人民共和国通史』」 『東洋学報』 41-1, 141-143頁 1958年6月30日
- 1962年
「ワルター・ハイシヒ著『仏典蒙訳史の研究』」 『史学雑誌』 71-9, 102-106頁 1962年9月20日
- 1965年
「シャンバ撰(パリンライ編)『アサラクチ・ネレト・テウケ』」 『東洋学報』 48-2, 114-119頁 1965年9月30日
- 1968年
「Lha. Misig, *Ulaγan baγatur qota-daki ulus-un nom-un sang-un manju nom-un kōmürgen-dü bayir-a manju nom-un γarčar.*」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 1, 154-164頁 1968年2月20日
「M. P. Volkova, *Opisanie man'chzhurskikh rukopisei Instituta narodov Azii AN SSSR.*」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 1, 164-166頁 1968年2月20日
「Noyan Qutuγtu Rabjai, *Saran-u kökügen-ü namtar.*」 『東洋学報』 51-1, 112-118頁 1968年6月30日
- 1969年
「Pao Kuo-yi, *Studies on The Secret History of the Mongols.*」 『アジア・アフリカ言語文化研究』 2, 229頁 1969年3月31日
- 1975年
「福井勝義著『焼畑のむら』」 『諸君!』 7-2, 212-213頁 1975年2月1日
- 1976年
「渡部昇一著『神話からの贈物』」 『朝日ジャーナル』 18-33, 80-81頁 1976年8月13日
「渡部昇一著『神話からの贈物』」 『論展』

- (今週の日本) 3-5, 89-90頁 1976年10月1日
- 1977年
- 「吉川幸次郎編『東洋学の創始者たち』『月刊シルクロード』3-3, 28頁 1977年4月1日
- 「間野英二著『中央アジアの歴史 新書東洋史8』『月刊シルクロード』3-9, 28-29頁 1977年11月1日
- 「山田豪一著『満鉄調査部』『月刊シルクロード』3-10, 46頁 1977年12月1日
- 1978年
- 「李圭泰著『韓国人の意識構造』『Voice』(PHP研究所)創刊号, 143頁 1978年1月1日
- 「志水速雄著『男らしさの人間学』『文化会議』113, 26頁 1978年11月1日
- 1979年
- 「樋口隆康編『図説日本文化の歴史 第一巻 先史・原史』『サンケイ新聞』13134 1979年2月21日
- 「梅原猛著『万葉を考える』『週刊サンケイ』28-11, 63-64頁 1979年3月22日
- 「大和岩雄著『古事記と天武天皇の謎』『週刊文春』1057, 147頁 1979年11月1日
- 1980年
- 「鳥居龍藏著『中国の少数民族地帯をゆく』, 周達生著『中国民族誌 雲南からゴビへ』『週刊読書人』1351, 4頁 1980年10月6日
- 1981年
- 「萩原淳平著『明代蒙古史研究』『史学雑誌』90-8, 79-85頁 1981年8月20日
- 「田代和生著『近世日朝通交貿易史の研究』『週刊読書人』20454, 4頁 1981年9月28日
- 1982年
- 「西田龍雄著『アジアの未解読文字』『朝日ジャーナル』24-21, 65-67頁 1982年5月21日
- 「陳正祥編著『中国歴史・文化地理図冊』『季刊東西交渉』(井草出版)1-2, 43頁 1982年6月15日
- 「岡田臣弘著『実像の中国』『週刊ポスト』(小学館)657, 88-89頁 1982年6月25日
- 1983年
- 「村松暎著『中国故事つれづれ草』『世界日報』2868, 9頁 1983年1月10日
- 「ホフハインズ, カルダー共著『脱アメリカの時代』『世界日報』2882, 9頁 1983年1月24日
- 「鈴木中正編『千年王国的民衆運動の研究 — 中国・東南アジアにおける —』『史学雑誌』92-2, 85-91頁 1983年2月20日
- 「越石建夫著『北京の800日』『世界日報』2909, 9頁 1983年2月21日
- 「中国研究センター編『「人民日報」読者来信』『世界日報』2916, 9頁 1983年2月28日
- 「尹学準著『オンドル夜話』『世界日報』2930, 9頁 1983年3月14日
- 「ラッセル・ブラッドン著『日本人への警鐘』『世界日報』2943, 9頁 1983年3月28日
- 「伊藤桂一著『静かなノモンハン』『世界日報』2971, 9頁 1983年4月25日
- 「佐瀬昌盛著『チェコ悔恨史』『世界日報』2984, 9頁 1983年5月9日
- 「周令飛著『北京よ, さらば』『世界日報』2998, 9頁 1983年5月23日
- 「草野心平著『茫々半世紀』『世界日報』3012, 9頁 1983年6月6日
- 「B・オフチニコフ著『桜の枝』『世界日報』3025, 9頁 1983年6月20日
- 「L・I・アルバウム, B・ブレンチェス著『黄金の番人』『世界日報』3032, 9頁 1983年6月27日
- 「古屋奎二著『故宮博物院物語』『世界日報』3039, 9頁 1983年7月4日

「田代和生著『書き替えられた国書』 『世界日報』 3046, 8頁 1983年7月11日

「ヒュー・トレヴァー＝ローパー著『北京の隠者』 『世界日報』 3060, 8頁 1983年7月25日

「ムハンマド・アサド著『メッカへの道』 『世界日報』 3080, 13頁 1983年8月15日

「金容雲著『韓国人と日本人』 『世界日報』 3094, 8頁 1983年8月29日

「岡崎久彦著『戦略的思考とは何か』 『世界日報』 3121, 9頁 1983年9月26日

1984年

「陳舜臣著『録外録』 『サンケイ』(産業経済新聞東京本社) 14946, 7頁 1984年3月19日

「島田正郎『清朝蒙古例の研究』(東洋法史論集第五) 『法制史研究』(創文社) 33, 258-262頁 1984年3月30日

「陳高華著『元の大都』 『サンケイ』 15069, 7頁 1984年7月23日

1987年

「江上波夫編『中央アジア史(世界各国史16)』 『史学雑誌』 96-6, 107-108頁 1987年6月20日

「福永光司著『道教と古代日本』 『文化会議』 217, 30-32頁, 1987年7月1日

「江村洋著『中世最後の騎士—皇帝マクシミリアン一世伝—』 『文化会議』 218, 36-38頁 1987年8月1日

1988年

「R. H. ファン・フーリック著/松平いを子訳『古代中国の性生活—先史から明代まで』 『文化会議』 229, 26-28頁 1988年7月1日

1989年

「海老沢哲雄『モンゴル帝国対外文書管見』(東方学 第七四輯) 『法制史研究』 38, 299-301頁, 1989年3月30日

1990年

「入江隆則著『グローバル・ヘレニズムの出現』 『正論』 218, 301-302頁 1990年

10月1日

1992年

「『文化』を三角測量する 川田順造著『西の風・南の風』 『文化会議』 280, 36-38頁 1992年10月1日

“New book makes the Mongol Empire starting point of world history: Hidehiro Okada, *The Birth of World History (Sekaiishi no Tanjō)*, 263pp. (in Japanese).” *The Mongolia Society Newsletter, n.s. No. 12*, pp. 54-55. September 1992.

旅行記

1971年

「嵐のなかの中華民国」 『諸君!』 3-11, 79-99頁 1971年11月1日

1973年

「一人で歩きはじめた国 ニュージーランドの憂鬱」 『諸君!』 5-8, 178-208頁 1973年8月1日 (写真とも)

「誰もが満足して暮す幸福の島」 『とらべる』(日本通運) 13-12, 4-6頁 1973年12月1日

1974年

「海外特集/ニュージーランド ゆとりの国 美しい国」 『旅行ホリデー』 91-95頁, 1974年5月22日

1975年

「シンガポール大学」 『諸君!』 7-11, 口絵 1-4頁 1975年11月1日 (写真とも)

1976年

「岡田英弘 プロフィール」 『諸君!』 8-8, 145-147頁 1976年8月1日 (韓国)

雑記

1966年

「ボンの二年間」 『東方学会報』 9, 6-7頁 1966年2月25日

1968年

「編集後記」 『アジア・アフリカ言語文化研

- 究』1 1968年2月20日
「電子計算機とチンギス・ハーン」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』4, 15頁 1968年3月30日
「研究ノート 永楽帝の母」『朝日新聞(夕刊)』29587 1968年5月10日
「アイマク」「アストラハン=ハン国」「アム川」「アルタン=ハン」「アルマリク」「イリ」「イリ条約」「ウルグ=ベグ」「ウルムチ」「エセン」「オイラト」「カラ=カルパク自治共和国」「カラハン朝」「ガルダン」「ガルダン=ツェリン」「甘肅」「九辺鎮」「キルギス共和国」「クジャン朝」「クジュラ=カドフィセス」「クリム=ハン国」「コーカンド=ハン国」「サマルカンド」「サーマーン朝」「シビル=ハン国」「ジュンガル」「シル川」「シルク=ロート」「新疆」「青帳汗国」「セミレチエ」「タンケント」「ダヤン=ハン」「タルバガタイ条約」「チャガタイ=ハン国」「中央アジア」「ティームール」「ティームール帝国」「トゥグルク=ティームール」「トゥルファン」「トクタミシュ」「トハラ語」「トルキスタン」「寧夏」「バーミヤーン」「ハラ=ホト」「バルフ」「フス=オルダ」「ブハラ」「ブハラ=ハン国」「ペチェネグ族」「ホージェント」「ホラーサーン」「ホラズム」「メルヴ」「蒙古游牧記」「モンゴル人民共和国」「ヤーク=ベグ」「耶律大石」「ヤルカンド」「リンダン=ハン」『世界史小辞典』(山川出版社) 1968年5月10日
1969年
「アジア・アフリカ・アメリカ」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』8, 18-19頁 1969年12月25日
1970年
「ワシントン大学キャンパス日記」『諸君!』2-7, 230-239頁 1970年7月1日
「ゲームの歴史学」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』11, 1-3頁 1970年12月20日
「採生折割の話」『中国古典文学大系月報』(平凡社) 39, 1-3頁 1970年12月
1971年
「一華僑から日本人へ」『諸君!』3-7, 40-47頁 1971年9月1日 (陳函南名義)
1972年
「毛沢東の冒険」『諸君!』4-1, 22-50頁 1972年1月1日 (構成)
「女性的日本人への警告」『諸君!』4-3, 212-217頁 1972年3月1日 (陳函南名義)
「ブレジネフ帝国の内幕」『諸君!』4-7, 60-77頁 1972年7月1日 (構成)
「岡正雄所長の退官」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』16, 1-2頁 1972年8月31日
「ジューイッシュ・ジョーク」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』16, 39頁 1972年8月31日
「蔣経国氏が言い残したこと」『文藝春秋』50-14, 232-237頁 1972年11月1日 (陳函南名義)
1973年
「紅衛兵の『裏切られた革命』」『文藝春秋』51-9, 112-132頁 1973年6月1日 (監修)
1974年
「モンゴル民族とアジア」『世界の歴史〔教授資料〕』(山川出版社) 245-247頁 1974年4月5日
「清とモンゴル」『世界の歴史〔教授資料〕』(山川出版社) 266-267頁 1974年4月5日
1975年
「はだしの日本人」『諸君!』7-1, 84-85頁 1975年1月1日
「フビライ・ハン」『ブリタニカ国際大百科事典』(TBSブリタニカ) 17, 422-424頁 1975年2月1日
「チンギス=ハンの大ヤサ」『新訳 世界史

- 史料・名言集』（山川出版社）51頁 1975年3月20日
- 「リュブリュキの「旅行記」 『新訳 世界史史料・名言集』（山川出版社）63頁 1975年3月20日
- 「オドリコの「旅行記」 『新訳 世界史史料・名言集』（山川出版社）65頁 1975年3月20日
- 「モンゴル〔帝国〕 Mongol」 「モンゴル Mongol」 『週刊アルファ世界大百科』（日本メール・オーダー社）242, 1975年4月30日
- 「ヤクート〔族〕 Yakut」 『週刊アルファ世界大百科』243, 1975年5月7日
- 「やりつあぼき 耶律阿保機」「やりつそざい 耶律楚材」「やりつだいせき 耶律大石」 『週刊アルファ世界大百科』245, 1975年5月21日
- 「モンゴル史」「モンゴル人」 『ブリタニカ国際大百科事典』19, 454-470頁 1975年7月1日
- 「リュブリュキ」 『ブリタニカ国際大百科事典』20, 267-268頁 1975年8月1日
- 1976年
- 「おんなの勇氣」 『現代』（講談社）10-3, 48-49頁 1976年3月1日
- 1977年
- 「私の研究 中国の「ことば」 『サンケイ新聞夕刊』12378 1977年1月10日
- 「編集後記」 『アジア・アフリカ言語文化研究』13 1977年3月31日
- 「近況」 『日本文化会議月報』59, 6頁 1977年3月1日
- 「倭国とは何か」 『朝日新聞（夕刊）』1977年9月8日号, 7頁 1977年9月8日
- 「まえがき」 『講座・比較文化 第二巻 アジアと日本人』（研究社）i-iii頁 1977年11月30日
- 1978年
- 「廣禄先生のこと—イリのシボ族—」 『月刊シルクロード』4-2, 32-33頁 1978年2月1日
- 「75字で書くエッセイ 民族主義」 『ざっくばらん』（並木書房）5-7, 5頁 1978年7月1日
- 「近況」 『日本文化会議月報』76, 6頁 1978年8月1日
- 「アメリカ人と日本人」 『サンケイ夕刊』13057 1978年12月5日
- 「たかがアジア大会」 『サンケイ夕刊』13064 1978年12月12日
- 「高句麗の壁画」 『サンケイ夕刊』13071 1978年12月19日
- 「台湾民主国」 『サンケイ夕刊』13078 1978年12月26日
- 1979年
- 「壁新聞のジョーク」 『サンケイ夕刊』13091 1979年1月9日
- 「ベトナムとカンボジア」 『サンケイ夕刊』13098 1979年1月16日
- 「共通一次の世界史」 『サンケイ夕刊』13105 1979年1月23日
- 「大安萬侶と古事記」 『サンケイ夕刊』13112 1979年1月30日
- 「アンケート特集 ネコとイヌとどちらが好きですか」 『文藝春秋デラックス』6-2, 131頁 1979年2月1日
- 「元号とは何か」 『サンケイ夕刊』13119 1979年2月6日
- 「嫌球権」 『サンケイ夕刊』13126 1979年2月13日
- 「バンチェン・ラマ」 『サンケイ夕刊』13133 1979年2月20日
- 「中国の戦略」 『サンケイ夕刊』13140 1979年2月27日
- 「中国人の早起き」 『月刊健康』185, 4頁 1979年9月1日
- 「翔ぶのが怖い」 『Voice』（PHP研究所）21, 37-39頁 1979年9月1日
- 「結婚の功罪 戯評的結婚論」 『言論人』443, 3頁 1979年11月25日
- 「談話室」 『文化会議』126, 9頁 1979年

12月1日 (通信)

1980年

「私の歴史学遍歴」 『高校通信東書 日本史・世界史』(東京書籍) 53, 1頁 1980年1月1日

「戯評 婚姻税のすすめ — 結婚に伴う四つの社会的弊害?」 『あすなろ』 3, 30-31頁 1980年3月1日 (『言論人』より再録)

「台湾の高砂族のこと」 『正論』 76, 30-31頁 1980年3月1日

「美術随想 龔定庵の悪筆」 『サンケイ新聞夕刊』 13629, 5頁 1980年7月11日

「フロンティアとしての女」 『月刊カレント』 17-9, 42-44頁 1980年9月1日

「文化の時代と女の開発」 『世界日報』 2066, 1頁 1980年10月12日

「はじめに」 『国際誤解と日本人』(日本文化会議編, 三修社) 1-4頁 1980年12月20日

1981年

「中国人の性意識」 『月刊健康』 203, 9-10頁 1981年3月1日

「春秋 耿国防部長の新任」 『時事解説』(時事通信社) 8930, 1頁 1981年3月20日

「春秋 中国を救うべきか」 『時事解説』 8937, 1頁 1981年4月14日

「春秋 租界ふたたび」 『時事解説』 8944, 1頁 1981年5月12日

「日本人とユダヤ人—ただしソール・ベローについて—」 『月曜評論』 538 1981年5月18日

「春秋 日韓誤解の構造」 『時事解説』 8950, 1頁 1981年6月2日

「中国側から見た遣唐使」 『らいふ』(日本アイ・ビー・エム) 24, 21-23頁 1981年6月4日

「春秋 韓国第五共和国の発足」 『時事解説』 8958, 1頁 1981年6月30日

「75字で書くエッセイ 微妙な相関」 『ざっくばらん』(並木書房) 8-7, 7頁 1981年

7月1日

「春秋 在米華僑の対中国感情」 『時事解説』 8973, 1頁 1981年8月21日

「春秋 シナリオ」 『時事解説』 8980, 1頁 1981年9月18日

「世界史教科書を疑う」 『諸君!』 13-10, 96-97頁 1981年10月1日

「新聞批評 『鄧小平の中国』 はどこへ行く」 『時事解説』 8984, 9-10頁 1981年10月2日

「春秋 政治指導者の条件」 『時事解説』 8986, 1頁 1981年10月9日

「新聞批評 『第三次国共合作』 の提案」 『時事解説』 8988, 11-12頁 1981年10月16日

「新聞批評 『第三次国共合作』 その後」 『時事解説』 8992, 7-8頁 1981年10月30日

「春秋 現代の韓国と儒教」 『時事解説』 8996, 1頁 1981年11月17日

「新聞批評 米議会と日本の防衛努力」 『時事解説』 8997, 8-9頁 1981年11月20日

「新聞批評 意外な中国の実態」 『時事解説』 9001, 7-8頁 1981年12月4日

「新聞批評 中国全人代と各紙の論評」 『時事解説』 9004, 10-11頁 1981年12月15日

「日本人の対外意識」 『時事解説』 9006, 1頁 1981年12月22日

1982年

「はじめに」 『適応力 新しい日本人の条件』(日本文化会議編, 三修社) 1-4頁 1982年1月15日

「文学者の反核声明を疑う」 『世界日報』 2530, 8-9頁 1982年1月29日

「新聞批評 極東有事研究の開始」 『時事解説』 9013, 7-8頁 1982年1月29日

「新聞批評 『文学者の反核声明』」 『時事解説』 9017, 7-8頁 1982年2月12日

「春秋 日韓誤解の構造」 『時事解説』 9020, 1頁 1982年2月23日

「新聞批評 社会党大会とF4問題」 『時事

- 解説』9022, 8-9頁 1982年3月2日
 「春秋 『縮み』 志向の日本人」 『時事解説』9026, 1頁 1982年3月16日
 「新聞批評 日米貿易摩擦の解決策」 『時事解説』9026, 10-11頁 1982年3月16日
 「田中角栄をどう思いますか」 『諸君!』14-4, 49-50頁 1982年4月1日 (アンケート)
 「新聞批評 ブレジネフ提案の評価」 『時事解説』9032, 9-10頁 1982年4月6日
 「東南アジアの心と言葉」 『クロスロード』(国際協力事業団青年海外協力隊) 18-197, 6-11頁 1982年4月15日
 「春秋 フォークランドの海戦」 『時事解説』9036, 1頁 1982年4月20日
 「新聞批評 ベトナム党大会の評価」 『時事解説』9036, 8-9頁 1982年4月20日
 「新聞批評 春闘の妥結とその評価」 『時事解説』9039/9040, 8-9頁 1982年4月30日
 「歴史は繰り返すか 在日中国人留学生の革新運動」 『月曜評論』589, 2頁 1982年5月10日
 「新聞批評 戦争になすすべを知らない新聞」 『時事解説』9043, 9-10頁 1982年5月14日
 「春秋 『東京行動』の偽善」 『時事解説』9047, 1頁 1982年5月28日
 「新聞批評 伊藤発言をめぐる空さわぎ」 『時事解説』9049, 7-8頁 1982年6月4日
 「趙紫陽首相来日の意義」 『世界日報』2659, 8-9頁 1982年6月10日
 「新聞批評 趙紫陽の日本訪問」 『時事解説』9053, 10-11頁 1982年6月18日
 「月曜寸言 歴史のシナリオ」 『月曜評論』596, 1頁 1982年6月28日
 「新聞批評 戦争の六月と日本の新聞」 『時事解説』9058, 7-8頁 1982年7月6日
 「春秋 アラブの大義」 『時事解説』9059, 1頁 1982年7月9日
 「新聞批評 IBM産業スパイ事件」 『時事解説』9061, 7-8頁 1982年7月16日
 「月曜寸言 千年王国」 『月曜評論』600, 1頁 1982年7月26日
 「新聞批評 生産者米価の引き上げ」 『時事解説』9065, 10-11頁 1982年7月30日
 「春秋 『教科書検定』問題」 『時事解説』9067, 1頁 1982年8月6日
 「月曜寸言 指桑罵槐」 『月曜評論』602, 1頁 1982年8月9日
 「新聞批評 教科書検定問題の報道」 『時事解説』9070, 8-9頁 1982年8月17日
 「月曜寸言 歴史と事実」 『月曜評論』604, 1頁 1982年8月23日
 「新聞批評 教科書問題のあっけない結末」 『時事解説』9074, 8-9頁 1982年8月31日
 「月曜寸言 教科書問題の結末」 『月曜評論』606, 1頁 1982年9月6日
 「中国党大会と教科書騒動」 『世界日報』2751, 9頁 1982年9月12日
 「春秋 教科書問題その後」 『時事解説』9098, 1頁 1982年9月14日
 「月曜寸言 教科書問題その後」 『月曜評論』608, 1頁 1982年9月20日
 「新聞批評 中共十二全大会の前夜まで」 『時事解説』9080, 9-10頁 1982年9月21日
 「新聞批評 教科書問題の大誤報」 『時事解説』9083, 8-9頁 1982年10月1日
 「新聞批評 鈴木訪中の評価」 『時事解説』9088, 10-11頁 1982年10月19日
 「春秋 『牛肉戦争』の教訓」 『時事解説』9089, 1頁 1982年10月22日
 「新聞批評 鈴木退陣の衝撃とその評価」 『時事解説』9092, 7-8頁 1982年11月2日
 「はじめに」 『日本と国際環境』(日本文化会議編, 三修社) 1-5頁 1982年11月15日
 「新聞批評 スペイン左翼新政権の成立」 『時事解説』9096, 7-8頁 1982年11月16日

- 「春秋 教科書審議会答申の矛盾」 『時事解説』 9098, 1頁 1982年11月26日
- 「新聞批評 ブレジネフ時代の評価」 『時事解説』 9099, 7-8頁 1982年11月30日
- 「歴史教科書答申の歴史知らず 歴史は国民文化の所産である」 『月曜評論』 619, 2頁 1982年12月6日
- 「新聞批評 『悪魔の飽食』 スキャンダル」 『時事解説』 9105, 6-7頁 1982年12月21日
- 1983年
- 「随筆 愛国」 『知識』 (文化総合出版) 29, 17-18頁 1983年1月1日
- 「春秋 百年前の憲法」 『時事解説』 (時事通信社) 9108, 1頁 1983年1月11日
- 「新聞批評 元日の紙面づくりの趣向」 『時事解説』 9101, 10-11頁 1983年1月14日
- 「新聞批評 シュルツ 国務長官の極東訪問」 『時事解説』 9117, 6-7頁 1983年2月15日
- 「解説 ミソの力の均衡図る — シュルツ訪中 『共同行動』 の範囲再確認」 『世界日報』 2906, 8頁 1983年2月18日
- 「春秋 シュルツ訪中の意義」 『時事解説』 9118, 1頁 1983年2月18日
- 「邪馬台国問題を見直す」 『高校通信東書』 (東京書籍) 88, 2-5頁 1983年3月1日
- 「新聞批評 防衛力増強はいまや多数派」 『時事解説』 9121, 8-9頁 1983年3月1日
- “Potential for high growth exists in Asia.”
The Daily Yomiuri, 11773, p.5. 1983年3月8日 (アンケート)
- 「新聞批評 東京都知事選挙の共闘難航」 『時事解説』 9125, 9-10頁 1983年3月15日
- 「春秋 現代韓国のヤンバン」 『時事解説』 9128, 1頁 1983年3月25日
- 「新聞批評 空母エンタープライズの寄港」 『時事解説』 9130, 8-9頁 1983年4月1日
- 「新聞を読んで 福岡県知事選の奥田派違反」 『時事解説』 9138, 19-20頁 1983年5月6日
- 「中曽根ASEAN歴訪と日中関係」 『月曜評論』 641, 1頁 1983年5月9日
- 「解説 中国, 最大限に事件を利用 — 韓国接近でソ連に対抗」 『世界日報』 2988, 8頁 1983年5月13日
- 「新聞批評 日本の防衛, アジアはどうみるか」 『時事解説』 9141, 14-15頁 1983年5月17日
- 「新聞批評 中国民航機のハイジャック事件」 『時事解説』 9145, 18-19頁 1983年5月31日
- 「はじめに」 『国際誤解と日本人』 (日本文化会議編, 三修社) 1-4頁 1983年6月15日
- 「新聞批評 サミット声明の必然性を説く」 『時事解説』 9150, 18-19頁 1983年6月17日
- 「春秋 ソ連人の日本観」 『時事解説』 9154, 1頁 1983年7月1日
- 「新聞批評 社会主義政党は生き残れるか」 『時事解説』 9160, 18-19頁 1983年7月22日
- 「モンゴル人と日本人」 『季刊東西交渉』 (井草出版) 6, 10頁 1983年7月27日
- 「春秋 うそつきの天才と歴史」 『時事解説』 9166, 1頁 1983年8月12日
- 「はじめに」 『日本人の条件 — 適応力』 (日本文化会議編, 三修社) 1-4頁 1983年8月15日
- 「社会主義国家の特権階級」 『日経連タイムス』 (日本経営者団体連盟) 1751, 1頁 1983年9月1日
- 「はじめに」 『成熟社会への条件』 (日本文化会議編, 三修社) 6-9頁 1983年12月15日
- 「胡耀邦の朝貢外交」 『月曜評論』 673, 2頁 1983年12月19日

- 1984年
- 「アンケート特集 私達が新聞を信じない理由—『軍事大国化』という嘘—『諸君!』16-1, 36-37頁 1984年1月1日
- 「アンケート特集『角栄裁判』論争をどう思いますか?」『諸君!』16-9, 55頁 1984年9月1日
- 1986年
- 「Tashkentの街から」『Yes増刊号 XING』30-11, 81頁 1986年11月25日
- 1987年
- 「孤独な国際化戦争(匿名時評)」『文化会議』216, 10-11頁, 1987年6月1日
- 1988年
- 「(財)日本文化会議 創立二十周年に寄せて」『文化会議』228, 5-6頁, 1988年6月1日
- 1989年
- 「西ドイツのダイエット」『月刊健康』333, 4-5頁 1989年5月1日
- 「ヨーロッパから天安門を望んで」『月曜評論』967, 2頁 1989年8月7日
- 「中国人の出稼ぎ」『文化会議』245, 1頁, 1989年11月1日
- 1990年
- 「歴史の見方について」『月曜評論』994, 1頁 1990年2月12日
- 「大東亜共栄圏の再来」『月曜評論』994, 4頁 1990年2月12日
- 「東ベルリンに吹く風」『月曜評論』995, 4頁 1990年2月19日
- 「失われて取りもどされた歴史」『月曜評論』996, 1990年2月26日
- 「異文化の価値」『月曜評論』997, 4頁 1990年3月5日
- 「千年王国のなごり」『月曜評論』998, 4頁 1990年3月12日
- 「ソドノム首相の名刺」『月曜評論』999, 4頁 1990年3月19日
- 「内藤湖南を憶う」『月曜評論』1000, 4頁 1990年3月26日
- 「パラボラアンテナ1 モンゴルの日本接近」『大望』(天理教青年会本部) 256, 26-27頁 1990年4月1日
- 「内藤湖南ふたたび」『月曜評論』1001, 4頁 1990年4月2日
- 「モンゴル帝国の遺産」『月曜評論』1002, 4頁 1990年4月9日
- 「パラボラアンテナ2 ゴルバチョフ大統領の意味」『大望』257, 26-27頁 1990年5月1日
- 「パラボラアンテナ3 リトアニア民族の誇り」『大望』258, 30-31頁 1990年6月1日
- 「中国の恐るべき実態を抉る」『滅亡へ直進する中国』(黄昭堂著, 祥伝社) 表紙裏 1990年6月25日
- 「パラボラアンテナ4 自信を持った台湾」『大望』259, 26-27頁 1990年7月1日
- 「パラボラアンテナ5 ハンガリーの民主化」『大望』260, 32-33頁 1990年8月1日
- 「パラボラアンテナ6 モンゴルの総選挙」『大望』261, 26-27頁 1990年9月1日
- 「パラボラアンテナ7 イラクのクウェイト侵略」『大望』262, 26-27頁 1990年10月1日
- 「パラボラアンテナ8 日中関係と日ソ関係を再考する」『大望』263, 26-27頁 1990年11月1日
- 「パラボラアンテナ9 追いつめられた金日成」『大望』264, 26-27頁 1990年12月1日
- 「「元気」と「養生」」『月刊健康』358, 1-2頁 1990年12月1日
- 「会員通信」『東方学会報』59, 42頁 1990年12月25日
- 1991年
- 「パラボラアンテナ10 「ソ連」から「ス連」へ, ロシアへ」『大望』265, 26-27頁 1991年1月1日
- 「パラボラアンテナ11 ソ連で内戦の危機がせまる」『大望』266, 26-27頁 1991年

- 2月1日
「パラボラアンテナ12 湾岸戦争より大きな危険が迫っている」『大望』267, 26-27頁 1991年3月1日
- 「談話室」『文化会議』268, 9頁 1991年10月1日
- 「私の近況」『東京新聞(夕刊)』1991年10月7日, 中日新聞東京本社, E版2頁 1991年10月7日
- 1992年
- 「まえがき」『歴史のある文明 歴史のない文明』(筑摩書房) i-vi頁 1992年1月25日
- 「男のおしゃれ」『月刊健康』378, 8-9頁 1992年4月1日
- 「75字で書くエッセイ 新生モンゴル」『ぞっくばらん』19-9, 10頁 1992年9月1日
- 「《表紙の写真について》 モンゴルの『ポー』(巫, シャマン)のダンス」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』76, 表紙裏 1992年11月25日(表紙写真の説明)
- 附, 講演
- 1957年
- 「元の順帝と済州島」史学会第56回大会 1957年11月10日
- 1961年
- 「蒙古史料に見える初期の蒙藏関係」史学会第60回大会 1962年11月12日
- 1966年
- “Life of Dayan Qaran.” International Conference of Orientalists in Japan. 1966年5月27日
- 1967年
- 「カルムィク文学「ウバシ・ホンタイジ伝」について」アジア・アフリカ言語文化研究所所内研究会 1967年10月13日
- 1968年
- 「皇帝・内務府・八旗」アジア・アフリカ言語文化研究所所内研究会 1968年6月28日
- 1969年
- “Yüan Ch'ao Pi Shih, A pseudo-historical novel.” The Third East Asian Altaistic Conference/東亜阿爾泰学会, 台北 1969年8月20日
- 1971年
- “The sexual ritual in a Messianic religion: The Yellow Book and the popular Taoism.” Inner Asia Colloquium, University of Washington, Seattle. 1971年4月5日
- “Outer Mongolia in the sixteenth and seventeenth centuries.” The Fourth East Asian Altaistic Conference, 台北 1971年12月29日
- 1976年
- 「日本古代史の考え方一 騎馬民族説批判」内陸アジア史学会 1976年11月8日
- 1977年
- “How Hong Taiji came to the throne.” The 20th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Leiden. 1977年8月16日
- 「元朝の皇帝直轄領と北元の六万戸」東洋史研究会大会, 京都大学楽友会館 1977年11月3日
- “International understanding and national identity: Their relationship.” The Third Asian Cultural Scholars' Convention. 1977年11月28日
- 1978年
- “Outer Mongolia through the eyes of Emperor K'ang-hsi.” 国際清史檔案研討会, 台北 1978年7月5日
- 「国際誤解の構造 外国人の日本人観」第九回東西文化比較セミナー 1978年12月2日(講演と討論)
- 1979年
- 「古代東アジアの歴史と文化1 河川と中国

- 文明」朝日カルチャー・センター，新宿住友ビル48階 1979年1月11日
- 「古代東アジアの歴史と文化2 森林と草原」朝日カルチャー・センター 1979年1月18日
- 「古代東アジアの歴史と文化3 半島の宿命」朝日カルチャー・センター 1979年1月25日
- 「古代東アジアの歴史と文化4 列島のあけぼの」朝日カルチャー・センター 1979年2月1日
- 「古代東アジアの歴史と文化5 皇帝と宦官」朝日カルチャー・センター 1979年2月8日
- 「古代東アジアの歴史と文化6 文字が言葉をつくる」朝日カルチャー・センター 1979年2月15日
- 「古代東アジアの歴史と文化7 人口一六千万から十億へ」朝日カルチャー・センター 1979年2月22日
- 「古代東アジアの歴史と文化8 城郭都市」朝日カルチャー・センター 1979年3月1日
- 「古代東アジアの歴史と文化9 儒教と道教」朝日カルチャー・センター 1979年3月8日
- 「古代東アジアの歴史と文化10 人の生き方」朝日カルチャー・センター 1979年3月15日
- 「古代東アジアの歴史と文化11 海賊王国」朝日カルチャー・センター 1979年3月22日
- 「古代東アジアの歴史と文化12 マルコ・ポーロの世界」朝日カルチャー・センター 1979年3月29日
- 「モンゴル文学史—草原の叙事詩をたずねて—」朝日カルチャー・センター 1979年7月7日—9月29日
- “Chinese characters in Japan: Ideographs or a phonetic script?” タイムライフ教育システム，タイムライフビル 1979年9月17日（中国英語教師考察団に対する講演）
- 1980年
- 「転換期にあるか，最近の台湾事情について」有朋会，ホテル・オークラ10階虹の間 1980年2月14日
- 「草原の英雄たち」ユーラシア大陸文化講演会 1980年2月22日
- 「中国文化の構造1 はじめに—中国人と日本人のちがひ」朝日カルチャーセンター，新宿住友ビル48階，1980年4月1日
- 「中国文化の構造2 ことばと文字—漢字とはどんな文字か」朝日カルチャーセンター 1980年4月8日
- 「中国文化の構造3 人種—漢族と少数民族」朝日カルチャーセンター 1980年4月15日
- 「中国文化の構造4 学問，試験，文学」朝日カルチャーセンター 1980年4月22日
- 「中国文化の構造5 恋愛，結婚，家庭」朝日カルチャーセンター 1980年5月6日
- 「東アジアの中の日本1 太平洋圏の中の日本」池袋コミュニティ・カレッジ 1980年5月6日
- 「中国文化の構造6 政治と商売」朝日カルチャーセンター 1980年5月13日
- 「東アジアの中の日本2 太平洋圏の中の日本」池袋コミュニティ・カレッジ 1980年5月13日
- 「中国文化の構造7 皇帝と首席，宦官と党幹部」朝日カルチャーセンター 1980年5月20日
- 「中国文化の構造8 宗教と秘密結社」朝日カルチャーセンター 1980年5月27日
- 「中国文化の構造9 性意識」朝日カルチャーセンター 1980年6月3日
- 「中国文化の構造10 生と死」朝日カルチャーセンター 1980年6月10日
- 「中国文化の構造11 笑話」朝日カルチャーセンター 1980年6月17日

- 「中国文化の構造12 おわりに—中国人らしさ、日本人らしさ」朝日カルチャーセンター 1980年6月24日
- 「国際協力の理想を求めて 文化の多様性と近代化」東京会議 1980年7月2日 (討論)
- “Plurality of cultures and modernization.” Tokyo Colloquium. 1980年7月2日 (討論)
- 「日本建国前のアジア情勢」横浜市教育文化センター文化講演会 1980年11月13日
- 1981年
- 「東アジアにおける日本の歴史的プレゼンス」日本文化会議カルチャーセミナー 1981年2月10日
- 「新儒学—導入、展開、現代的意義 三隠(李穡、鄭夢周、李崇仁)の思想」国立慶北大学校第9回国際学術Semina 1981年10月30-31日 (発言)
- “Four Mongolian songs in praise of Emperor K’ang-hsi.” The 6th East Asian Altaistic Conference, Taipei. 1981年12月18-23日
- 1982年
- 「歴史学から見た言語文化」アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「言語文化調査票」研究会 1982年6月25日
- 「シンポジウム『元朝秘史』元朝秘史(本集)の構成」日本モンゴル学会昭和57年度秋季大会, 大阪大学 1982年11月6日
- 1983年
- 「中国人のコミュニケーション」日本文化会議コミュニケーション研究会 1983年4月18日
- 「遊牧民族の歴史と文化3 蒼き狼の裔—モンゴル帝国」朝日カルチャーセンター・横浜, 横浜ルミネ8階 1983年4月21日
- 「遊牧民族の歴史と文化4 天山の雪—ジュンガル王国の興亡」朝日カルチャーセンター・横浜 1983年4月28日
- 「モンゴル史料について」アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「内陸アジア史文字資料の研究」研究会 1983年6月3日
- “The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči*.” The 31st International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa, Tokyo—Kyoto. 1983年9月3日
- “Mongol chronicles and Chinggisid genealogies.” 亜洲族譜研究会, 台北 1983年9月12日
- 1984年
- “Present state of China border area studies in Japan.” 国際中国辺疆学術会議, 国立政治大学, 台北 1984年4月23日
- “Life and work of Dayan Khan” 国際中国辺疆学術会議, 国立政治大学, 台北 1984年4月25日
- “The Chinggis Khan shrine and *The Secret History of the Mongols*.” The 27th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Walberberg, Bundesrepublik Deutschland. 1984年6月14日
- 「海外報告—国際辺疆学術会議, 第27回国際アルタイ学会 (PIAC) 第21回野尻湖クリルタイ, 長野県上水内郡信濃町野尻湖ホテル 1984年7月16日
- 1985年
- 「中国文明の基本構造とは何か」日本文化会議横浜セミナー, ホテル・ニューグランド2階フェニックス・ルーム 1985年3月12日
- 「日本民族の源流」中小企業能率センター文化教養セミナー, 新阪急ビル12階スカイルーム, 大阪 1985年3月20日
- 「韓国史」日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会 1985年5月9日
- “The Koreans in Manchuria in the Yüan times.” 中韓文化関係学術研討会 /

- International Conference on Sino-Korean Cultural Relations, 台北 1985年5月20日
- 「韓国現代史」日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会 1985年6月4日
- “Jesuit influence in Emperor K'ang-hsi's Manchu letters.” The 28th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Venezia. 1985年7月12日
- 「日中交流と日本人の中国理解」企業内語学教育研究会, 国立教育会館 1985年10月16日
- 「漢字文化圏の社会と人間関係—国家意識・家族意識・美意識」日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会 1985年10月29日
- 「中国文化史—南宋・元—6 居庸関」朝日カルチャーセンター・横浜 1985年11月16日
- 「蒙古自治運動と日中関係」エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ本館2階青嵐の間 1985年11月26日
- 1986年
- “Mandarin, a language of the Manchus: How Altaic?” International Symposium on the Languages, Cultures and Histories of the Minority Nationalities of China, Santa Barbara, California. 1986年1月27日
- 「満洲民族は如何に中国を創ったか」エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1986年4月7日
- 「海外事情報告・国際中国少数民族言語文化歴史シンポジウム (アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタバーバラ, 1986年1月26-29日)」第23回野尻湖クリルタイ 1986年7月20-23日
- “Dayan Khan in the Battle of Dalan Terigün.” The 32nd International Congress for Asian and North African Studies, Hamburg. 1986年8月25-30日
- “The Fall of the Uriyangqan Mongols.” The 29th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Tashkent. 1986年9月15-20日
- 「日本人単一民族論の再検討—特に東北アジアの歴史の中で—」エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1986年12月23日
- 1987年
- “The Chakhar shrine of Eshi Khatun.” The 30th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Bloomington, Indiana 1987年6月22日
- 「中央アジアを考える—歴史と現実—」エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1987年7月15日
- 「日本人の内なる非国際性を越えて」日本文化会議カルチャー・セミナー, パレス・ホテル 1987年7月16日
- 「第29回国際アルタイ学会 (PIAC, Tashkent, U.S.S.R., 1986年9月)」第24回野尻湖クリルタイ 1987年7月20日
- “Origin of the Ordos shrine of Chinggis Khan.” The 5th International Congress of Mongolists, Ulan Bator, 1987年9月 (論文のみ送付)
- “Batu Möngke Dayan Khan in *The Biography of Altan Khan*.” 内蒙古大学蒙古学国際学術討論会, 呼和浩特 1987年9月25-29日
- 「アジアのなかの邪馬台国」立川朝日カルチャー・センター 1987年10月13日
- 「建国以前の日本と中国」古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館 1987年10月21日
- “The Lost Manchu original of *Meng-ku Shih Hsi P'u* by Lomi.” 第二届中国域外漢籍国際学術会議, 台北 1987年12月19日
- 1988年
- 「中国史から見た民族問題」エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1988

- 年 4月19日
 “Origin of the Qorčïn Mongols” 31. Tagung der Permanent International Altaistic Conference, Weimar, Deutsche Demokratische Republik 1988年 6月14日
 「第31回国際アルタイ学会報告 (31. PIAC, 東ドイツ・ワイマール, 1988年 6月13-17日)」 第25回野尻湖クリルタイ 1988年 7月18日
 「東アジアにおける国家の形成—中国・日本・朝鮮」 第7回経済人と言論人懇談会, パレス・ホテル 1988年 7月27日
 「建国以前の日本」 三菱金曜会, 三菱ビル 1988年 9月 9日
 “The puzzles of Dayan Khan” Seminar für Sprach- und Kulturwissenschaft Zentralasiens der Universität Bonn, Bonn 1988年11月25日
 1989年
 「ダヤン・ハーンの謎」 アジア・アフリカ言語文化研究所所内研究会 1989年 1月25日
 「太和朝廷の成立」 古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館 1989年 3月11日
 「日本人の非国際性とは何か」 日立総合経営研修所 1989年 5月24日
 “Dayan Khan in *The Biography of Altan Khan.*” The 32nd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Oslo. 1989年 6月14日
 “Lecture.” Mongolia and Inner Asia Studies Unit, University of Cambridge, Cambridge. 1989年 6月22日
 「第32回PIAC報告」 第26回野尻湖クリルタイ 1989年 7月22日
 “The Third Dalai Lama and Altan Khan of the Tümed.” 国際チベット学会第6回学術セミナー, 成田ビューホテル 1989年 9月 1日
 「台湾の歴史と将来—民族問題を中心として—」 エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1989年 9月14日
 「中国と韓国 その違い」 フジゼロックス第6期異文化間コミュニケーション研究会 1989年 9月22日
 「質問」 日本文化会議年次集会シンポジウム 「昭和史の検証 内と外からの視点」 1989年 9月23日 (発言)
 「コメント」 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『『未開』概念の再検討』研究会 1989年11月20日 (発言)
 「台湾事情に関するブリーフィング」 三菱信託銀行本店 1989年12月 7日
 1990年
 「二十一世紀の中国と日本—激動する世界史の中で新しい日中関係を求める—」 エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ 1990年 1月23日
 「ユーラシア大陸の歴史と民族」 日本文化会議月例懇談会 1990年 3月16日
 「ソ連の民族問題」 エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ本館2階清流の間 1990年 5月22日
 「中国文明の構造と発展」 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト 『『未開』概念の再検討』研究会 1990年 6月12日
 “The Yüan imperial seal in the Manchurians: The source of the Ch’ing legitimacy.” The 33rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Budapest. 1990年 6月28日
 「民族の世界史 I」 エグゼクティブ・アカデミー, ホテル・オークラ別館地下2階曙の間 1990年 9月13日
 「中国史の常識, 非常識」 古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館 1990年10月 3日
 「中央ユーラシア史の可能性」 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト 「アジア遊牧民の歴史と言語」 研究会 1990年10月 8日

- “Why Japanese use Chinese characters.”
SIETAR Japan, 青山学院大学総合研究
所10階18号室 1990年11月21日
- 「中国文明における歴史」日本文化会議東西
文化比較研究セミナー「文化としての歴
史 歴史のある文明, 歴史のない文明」,
大磯プリンス・ホテル 1990年11月30日
- 「民族の世界史 II」エグゼクティブ・アカ
デミー, ホテル・オークラ本館2階飛鳥
の間 1990年12月7日
- 1991年
- 「民族の世界史 III」エグゼクティブ・アカ
デミー, ホテル・オークラ本館2階飛鳥
の間 1991年3月6日
- “China as a successor state to the Mongol
Empire.” International Seminar ‘The
Mongol Empire and Its Legacy,’ School
of Oriental and African Studies, Uni-
versity of London. 1991年3月21日
- 「国際セミナー『モンゴル帝国とその遺産』
(於ロンドン大学東洋アフリカ学部) 参
加報告」日本モンゴル学会春季大会, 東
京外国語大学 1991年5月25日
- 「世界史の誕生」六本木フォーラム, 六本木
プリンス・ホテル3階IBMエグゼク
ティブ・サロン 1991年5月29日
- 「民族の世界史 IV」国際関係基礎研究所,
ホテル・オークラ本館2階有明の間
1991年6月4日
- “The Khan as the sun, the jinong as the
moon.” The 34th Meeting of the Per-
manent International Altaistic Con-
ference, Evangelischer Johannesstift,
Berlin. 1991年7月23日
- “A comparison of the Manchu and Chinese
texts of Emperor Ch’ien-lung’s compo-
sitions on the Torguts. 清高宗御製土爾
扈特詩文滿漢文之比較” 第六届中国域外
漢籍国際学術会議, 政治大学公企中心,
台北 1991年8月30日
- “The descendants of Jöchi Khasar in *Altan*
Tobchi of Mergen Gegen. 墨爾根格格所
撰『黄金史綱』中之拙赤合撒兒後裔世
系” 第六届亜洲族譜学術研討会, 政治
大学公企中心, 台北 1991年10月4日
- 1992年
- 「世界史からみた現代東アジア」国際関係基
礎研究所, ホテル・オークラ別館12階星
雲の間 1992年2月7日
- 「国際誤解」日本鉄鋼連盟労働部会, 経団連
会館3階日本鉄鋼連盟会議室 1992年2
月21日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 1」JALシニアーズ・アカデ
ミー, NHK文化センター 1992年4月8
日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 2」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年4月15日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 3」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年4月22日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 4」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年5月6日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 5」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年5月13日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 6」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年5月20日
- 「人間の歴史II チンギス・ハーン—モンゴ
ル盛衰史 7」JALシニアーズ・アカデ
ミー 1992年5月27日
- “Chinggis Khan’s instructions to his kin in
Blo-bzang-bstan-’dzin’s *Altan Tobci*”
International Symposium on Mongolian
Culture, National Chengchi University
International Conference Center, Tai-
pei, May 28–June 3, 1992. 1992年5月
30日
- “The *bilig* literature in *Činggis Qayan-u*

- Čadig” The Sixth International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar. 1992年8月12日
- “The Mongolian literary tradition in early Manchu culture” The 35th Meeting of the Permanent International Altaic Conference, 中央研究院學術活動中心, Taipei. 1992年9月14日
- 「世界史から見た中国と中国人」 大手町ファーストスクエア19階三菱マテリアル社長室 1992年9月29日
- 「世界史の誕生」 アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「アジア遊牧民の歴史と言語」研究会 1992年10月12日
- 「モンゴル帝国と現代世界」 古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館 1992年10月26日
1993年
- 「モンゴルと世界史1 世界征服の「天命」— チンギス・ハーン」 朝日カルチャーセンター, 新宿住友ビル48階 1993年1月12日
- 「世界史の中のモンゴル1 チンギス・ハーンが世界を変えた」 朝日カルチャーセンター・横浜, 横浜ルミネ 8階 1993年1月13日
- 「モンゴルと世界史2 中央ユーラシア草原にて— 遊牧民の生活」 朝日カルチャーセンター 1993年1月19日
- 「モンゴルと世界史3 世界史以前の世界— 中国と地中海の歴史」 朝日カルチャーセンター 1993年1月26日
- 「モンゴルと世界史4 トルコからモンゴルへ— 遊牧帝国の成長」 朝日カルチャーセンター 1993年2月2日
- 「モンゴルと世界史5 モンゴル帝国の最盛期— 13世紀~17世紀」 朝日カルチャーセンター 1993年2月9日
- 「モンゴルと世界史6 モンゴルの継承国家— 特に中国とロシア」 朝日カルチャーセンター 1993年2月16日
- 「モンゴルと世界史7 新しい本物の「世界史」をどこに求めるか」 朝日カルチャーセンター 1993年2月23日
- 「私と歴史学」 アジア・アフリカ言語文化研究所内研究会 1993年3月24日

附, 放送番組

1977年

「伊丹十三の古代への旅 第十一回 気になる倭人伝」 テレビマンユニオン制作, 東京12チャンネル 1977年12月24日 (出演)

1986年

「建国記念の日特集 古代青銅器の謎」 NHKラジオ第一放送 1986年2月11日22時15分-23時 (談話, NHKラジオ第二放送にて1986年4月29日再放送)

1991年

「チンギス・ハーンの墓を探せ」 NHK Radio Japan 1991年8月7日 (談話)

1992年

「NHKスペシャル 大モンゴル 第1集 幻の王 プレスター・ジョン」 NHK総合テレビ 1992年4月12日午後9時~10時 (監修)

「NHKスペシャル 大モンゴル 第2集 蒼き狼 チンギス・ハーン」 NHK総合テレビ 1992年5月10日午後9時~10時 (監修)

「NHKスペシャル 大モンゴル 第3集 世界征服への道」 NHK総合テレビ 1992年6月14日午後9時~10時 (監修)

「NHKスペシャル 大モンゴル 第4集 大いなる都」 NHK総合テレビ 1992年7月12日午後9時~10時 (監修)

「NHKスペシャル 大モンゴル 第5集 巨大国家の遺産」 NHK総合テレビ 1992年8月2日午後9時~10時 (監修)